

岩手県文化財調査報告書第六十四集

岩手県「歴史の道」調査報告

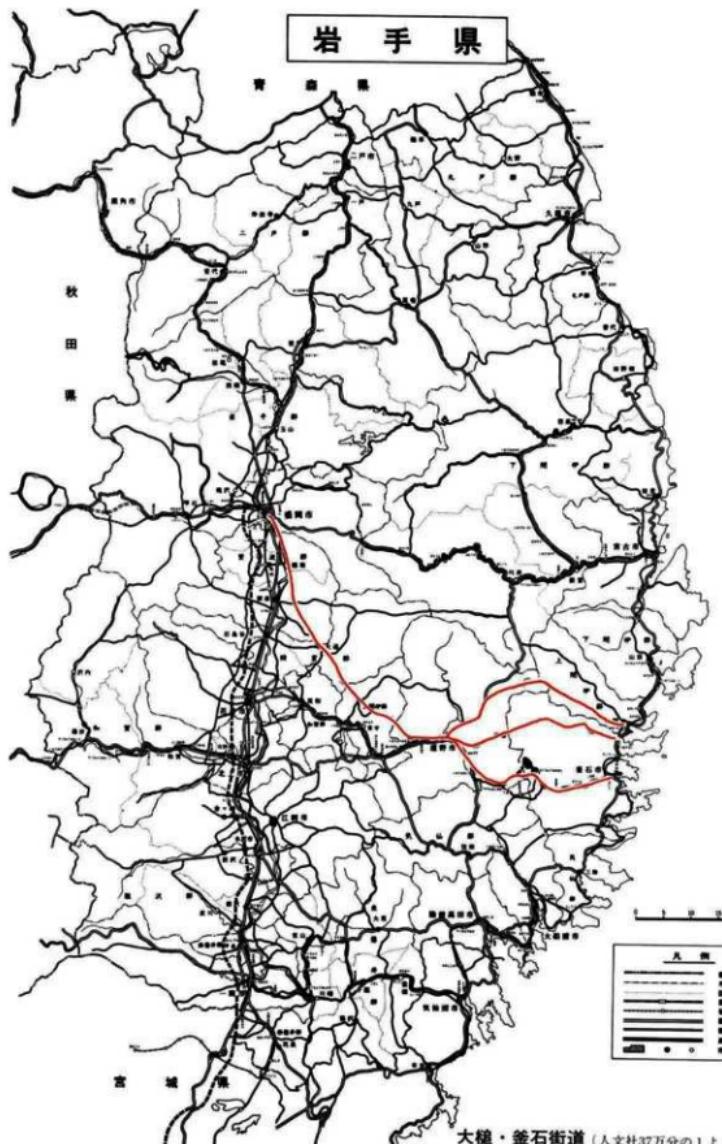
大槌・釜石街道

岩手県教育委員会

岩手県「歴史の道」調査報告

大槌・釜石街道

（遠野街道・大槌街道
釜石街道・笛吹峠道・その他）



大槌・釜石街道（人文社37万分の1より）

序

地域開発に伴なう交通網の整備は、現代社会の進歩発展から生ずる必然的な要請であり、県内においても日々近代的な道路の建設が各所で行われ、私達の生活は一段と便利になり多大の恩恵を受けております。

しかしその反面、本県歴史を知る上にきわめて重要な意味をもつ道・河川などの交通路に残る並木道・道標・一里塚などの交通遺跡が次第にその姿を消しております。このような現状を重視し、本県では昭和五十三年度から国庫補助を受け「歴史の道」を調査してまいりました。

本報告書は、本年度に調査しました五街道のうち、盛岡城下の發町惣門前で奥州道中から分岐して、大迫・達曾部を通って横田（遠野）にいたり、さらに分歧して一方は横田から界木崎を越えて大館にいたる、他方は仙人峠を越えて釜石にいたる「大船・釜石街道」について、街道の現状と文化財の保存状況など、その周囲の環境を含めて総合的に調査し、その成果を集成したものであります。

本書が、今後の交通関係遺跡の保護及び歴史の道研究の一助となれば幸いります。

なお、調査に御協力いただきました調査員各位並びに関係市町村教育委員会をはじめ、諸資料を提供してくださった方々に対し、衷心より感謝申し上げます。

昭和五十六年三月

岩手県教育委員会
教育長 新里 益

例　言

一、本書は歴史の道「大槌・釜石街道」に関する報告書である。

二、本調査は主として次にあげるもの収集し、調査を実施した。

(1) 収集したもの

古文書、地誌類、紀行文、古絵図類や明治時代の実測図など。

(2) 調査した事項

(1) 道及びこれに沿う地域に残る遺跡の分布状況と保存の実態。

(2) 江戸時代の国界・藩界及び郡名。

三、本調査の調査員・補助員は左記のとおりである。

主任専門調査員

草間俊一

岩手大学教授

専門調査員

細井計

岩手大学教授

専門調査員

吉田義昭

盛岡市教委文化財専門員

地区調査員（盛岡市）

菊池常雄

浅沢村文化財調査員

地区調査員（藤南村）

勝文字重範

都南村文化財調査員

地区調査員（紫波町）

佐藤正雄

岩手県文化財保護指導員

地区調査員（大迫町）

藤原美津雄

大迫町文化財調査員

地区調査員（宮守村）

水原義人

宮守小学校教諭

地区調査員（遠野市）

立花敏勝

大出中学校教諭

地区調査員（釜石市）

武山利一

釜石市文化財保護審議会会長

補助員

高橋哲郎

岩手大学文部技官

四、調査の方法は、地区調査員が調査カードを作成し、調査カードにもつづき専門調査員が確認調査を行なった。

五、本書は、主任専門調査員草間俊一が執筆し、文化課が編集にあたった。

目 次

岩手県教育委員会教育長 新 里 盈

序

例 言

第一章 まえがき

第二章 街道の現状と文化財・その他

第一節 遠野街道	7
第二節 遠野街道沿いの文化財・その他	12
第三節 大槌街道	32
第四節 大槌街道沿いの文化財・その他	43
第五節 釜石街道	33
第六節 釜石街道沿いの文化財・その他	52
第七節 苗吹崎街道・その他	53
第八節 苗吹崎街道沿いの文化財・その他	58

第三章 街道沿いの公開施設

第三章 街道沿いの公開施設	12
第四章 あとがき	41
第五章 写 真	59
第六章 地 図	6

地 图

大槌・釜石街道

第一章 まえがき

盛岡から奥州道中と分れて、東の太平洋岸に至る街道は、南から乙部一大迫—遠曾郡—遠野へ行き、遠野から界木峠を越えて大槌に行く道と、遠野から仙人峠または笛吹峠を越えて釜石に行く道とがあった。北の方は釜川—早坂峠—岩泉から安家の元村に出て、昔代から野田に行く道があった。中間は盛岡から篠川—区界峠—山代—茂市—宮古へ行く道があった。木年はこの三つの道を歴史の道として調査することになり、私は乙部道を調査することになった。

江戸時代の『盛岡御領内大筋道記』(県立図書館本)によれば、「南部盛岡御城下所々道筋並出口」に七筋があげられ、「一、乙部道 神子田 足輕町 一、篠川道 上小路 足輕町 一、篠川道 下小路 足輕町」とある。その精細について、

「一 盛岡ヨリ乙部マテ 三里半 平地

此問篠川廣八間

深二尺 乙部川廣三間 深七寸

一乙部ヨリ大迫マテ 四里半 同

一大迫ヨリ横田マテ 六里半 同

此問篠川橋十間 幅二間 深二尺 築ヶ石川廣八間 深七寸五寸

一横田ヨリ釜石湖マテ 十里 山続

此問佐比内川廣二間 深五寸 釜石川廣七間 深五寸 皮抜山坂四里

難所雪中牛馬不通

一横田ヨリ山口マテ 三里半 平地

此問佐比内川廣三間 深七寸
一山口ヨリ大槌マテ 六里 山続
此問橋野川廣三間 深五寸
青木坂老問半雪中牛馬不通

とある。

従つて、盛岡—横田(遠野)までを遠野街道と呼び、横田—大槌までを大槌街道、横田—釜石までを釜石街道として述べることにする。それがむかしの道標にも則していふと思われる。

なお、「南部領内行恩」(県立図書館本)には

「一 盛岡ヨリ乙部道二里三十四丁六間 百十文

一乙部ヨリ大迫道四里廿九丁廿八間 百七十九文

一大迫ヨリ遠曾郡道二里廿二丁五十間 九十五文

一遠曾郡道四里廿九丁十三間 百八十一文

一横田ヨリ大槌道十里八丁七間 四百文

とあり、釜石への道は記されていない。これは大船に代官所があったので、これが本道とされたが、幕末に釜石の発展が著しくなったので、「三閑伊豆中國」と「三閑伊路略記」には大槌街道の記述がなく、釜石街道が記されている。釜石街道が主となつたようである。

この道の調査に当つては、関係市町村に調査員を依頼し、その調査とその資料に基づいて、私が現地を案内された上で執筆したものである。関係調査員は盛岡市菊池常雄氏、都南村勝文子重義氏、紫波町佐藤正雄氏、大泊町藤原美津雄氏、宮守村永原義人氏、遠野市立花敏勝氏、釜石市武山利一氏で、大槌町は沢館榮吉氏をはじめ、周辺市町村の教育委員会の方々の御協力を得て調査を行つたものである。なお旧街道は田道と表現する。「三閑伊路略記」、「三閑伊道中圖」は、両者相関連して書かれたもので、街道の状況の記録と絵図である。幕末の文化文政頃のものと思われる。脇街道であったか

らか、一里塚の手人も良くなかったようで、当時に一里塚の破壊されたのが多かったのか、記録にも、絵図にもところどころ記録されていない。盛岡市公民館所蔵本で、もと盛岡藩主南部家所蔵のものである。本文では路程記、道中國と「」をつけず表現することにした。なお、両者とも釜石を起點として神子田の舛形を終点に書かれているので、順序はこの報告とは逆コースになっている。その主要な絵図を後に括して掲げるが、絵図の順とは逆に盛岡よりの順に並べることにした。

第二章 街道の現況と文化財・その他

第一節 遠野街道

写しは第一回(第一回)の番付である。(1)は第一回の文化財・その他の番号であり(以下同じ)、市町村別で通し番号になっている。

○ 盛岡市

盛岡城下より遠野への街道は、乙部道からはじまるが、南方の出口惣門を出て、鉢屋町から神子田の同心組町を出はずれると舛形があった。この間道路は舗装され、家並も昔の面影はないが(写し)、道筋とその幅員は昔と余り変らない。鉢屋町に入ると間もなく右手に大慈清水がある(写し)。北上川の川渓に出て、舛形のあった附近は、北上川畔の護岸工事と、それに伴う川岸道路の開通などで、著しく変わっていて、舛形の名残りはない(1回)。その附近にあった問引地蔵(写し)は位置が變っているが、現在も立つている。舛形の東方に新山館(写し)があった。舛形を出て篠川橋との間に盛岡バイパスが十文字に交叉していて、交通が頻繁である。

篠川橋を渡って、東中野から安庭へとづくが、そこに篠川の茶屋(写し)があり、その東方の見石には金毘羅神社(写し)がある。それより、少し南に下ったところに東北農試の盛岡試験場があるが、その前に幕末に大崎鈎場所が建てられたが、今その跡は全くない。

安庭から門の境附近の街道沿いに柳並木(写し)があるが、そのところに一里塚のあったことが、「上田通絵図」(2回)(盛岡市公民館蔵)に記されているが今はその跡は全くない。その東側に「二三三」の蝶ヶ森があり(写し)、その頂上にベニイタヤ(盛岡市指定天然記念物)がある。



1図 遠野街道 盛岡市地図(大正5年)

(明治後 川原町—鉢屋町—
神子田組町—舛形付近)

。都南村
都南村に入つて、東側の沢口の丘陵の小高いところに高寺觀音^①がある。それから街道を進むと、北上川岸に三本柳渡し場^②がある。北上川には盛岡の川原町と仙北町とをつなぐ舟橋より南には橋がなく、舟渡してあつたので、各所に渡し場があつた。盛岡市分では門の渡しがあり、都南村では四カ所あったが、この三本柳の渡しは昭和五十年頃まで、村営で利用されてゐた。現在も対岸の三木柳に舟番小屋が残つておらず、手代森側には當時、舟を繋留した樹の木が残つてゐる。



2図 遠野街道 燐方森の一里塚

神子田町の地形は、上田組町に
くらべて簡単である(奥州道中参考)

旧道は現在県道となつて道巾も広げられ、舗装されているので、单调な道になつて、昔の面影は全くなくなつてゐる。東側の平地に臨む丘陵には、各所に中世の駿跡がある^③。田中附近から黒川小学校附近は旧道と度つてゐるようだが、旧道のあとは水田や宅地となってそのあとは明らかでない。「黒川の石突」と称されるものがあり^④、現在宅地内の庭石のようになつてゐるが、これは、昔北上川の堤防がない頃、北上川がこの石の渦を洗い流れていて、船着場になつていたと云われる。道中國には「黒川のヨバレ石」という大石が記されているが、石突がこれに當るか明らかでない。なお、この附近が「塚の根」と云う地名になつているのは「里塚のあと」が明らかでない。それを過ぎて乙部に入るが、如法寺^⑤の前を通つて、乙部の町並になる。路程記に「乙部ハ町屋作の家もあれど大方は農家也、酒屋などもありてよき村也」とある宿場であつた。乙部のはずれに「乙部の方八丁^⑥」がある。

。紫波町

紫波町に入ると、旧道と県道と違つたところが少しあつて、江岸寺^⑦の前に出る。それから柳田の一里塚^⑧附近まで、旧道は県道に改修されて單調に舗装されている。柳田の一里塚を過ぎて県道は南折するが、旧道は直ぐ東南に舗装されない道を「ねほど行くと^⑨」、南に折れる道の分れに「鶯の道標」^⑩がある。南に折れる右の道を行くと、再び県道に出る^⑪。ここで旧道は県道と重つて再び單調な舗装道路となる。遠山の少し東に入ったところに正音寺^⑫がある。それから少し行くと西側の丘陵上に吉麻神社^⑬がある。吉麻神社の南に星山峠があり、これが街道から分れて、日詰に出る分れ道となつていて、通陥道といわれてゐる。そこから駿方森の山腹を通り、八掛に出る。ここで現在日詰より赤沢へ行く舗道と交差している。

八掛から少し行った木ノ脇には一里塚がある(写真)。この附近は県道が

抜けられているばかりでなく、道路の高低をなくすために道路自体も五・五
mほど掘り下げられているので、一里塚は西側のものは完全に消滅し、東側

の一部が、道路東側のノリの部分に一部高まりとして残って、その存在を物語るにすぎない。それから四十数町行った鶴日田に、路程記に記されている一里塚(写真)がある。駄街道であるので七里塚であったものであろう。この一里塚も木ノ脇の一里塚と同様道路の改修に当って旧道が五m近く掘り下げられているので、西側のものは完全に破壊され、東側の一基が半分以上削り取られて、道路から見上げるところに断面を見せている。

更に進んで、半束沢の手前に沢沿いの北上する道との分岐点があり、そこに明治九年のものであるが道標が立っている(写真)。「右へやま道 左へもりおか道」とある。その分れよりやま道へ三〇〇mほど行った水田の中が、佐比内代官の跡(写真)である。なお、街道更に進むと、左手に鳳仙寺(写真)が有る。鳳仙寺より少し行って、右手に入る小道があり、それを行くと岩屋觀音(写真)がある。その手前に洞穴があり、最近人骨と上器片が出土したとの事で片山洞穴住居跡と名付けることにした(写真)。

街道を更に進むと、佐比内の中心地横町となる。藩政時代ここに高札場があつたが(写真)、現在は口詰に通ずる県道となつていて(写真)。この横町の南はずれに検断屋敷(写真)があつた。今は水田となつていて(写真)。

○大迫町

横町をすぎて間もなく大迫町に入る。町境より「左はと行つた右手に岩神

観音堂(写真)がある。それから少し行くと、石鳥谷へ通ずる県道との分岐点となれる。そこから少し行くと岩の日に一里塚があつた(写真)。最近の道路の改修で破壊されたが、道中國、路程記にも記されている一里塚である。それから少し行くと丘陵が、稗貫川岸まで迫つて歩行出来ないので、その岩鼻の部分は藩政時代は山越えをして(写真)、木ノ脇沢に下りた。その丘陵を下りた

ところに天保義民の碑(写真)がある。それを過ぎて、大迫町内に入るが、大迫は宿場で、下町・中町・上町と町並となつていて、路程記には次の如くある。

「大迫は小場なれども家並打そり上町中町川原町下町と其名別にてよき町並也。町の人口右の方に神明の社有。川原町より早池峯行道有。東岸寺(写真)と云寺あり。岳川の橋渡って宮所有(写真)。明林寺(写真)と云寺あり。町はづれに金毘羅の社有」(轟野方面から書かれているので、この筆者と誤りとは思ふ)とある。

街道は藩政時代のはじめか、それ以前は妙塚寺のところから北に折れて、教育委員会や山岳博物館のある丘の北側を通つて、現在の大迫中学校の前に出たが、道中國の書かれた幕末には、現在の県道と同じ道筋になつていて、

大迫町を出はざれると、旧道は現在の県道の北側を通つていて、旧道のあとが農道とし残っている。その旧道の下中筋に一里塚があつたが(写真)。今はその旧道を進んで、旭の又川を渡つて少し行くと、外川目へ行く道との分岐点になる。そこが茶屋と云われているが、休息の茶屋があつた名残か。その分れに道標がいくつかあつたらしいが、現在一基だけある(写真)。が、諏訪神社(写真)や陽明寺墓地(写真)・(写真)に分散されているらしい。

茶屋のところから旧道は現在の県道に出て、宮守村の方に進むが、藩政時代の初めか、それ以前は東北方の山廻を通つて、桜田に出で、現在の県道のところを通りいる。宮守村に入る手前の上落合に一里塚(写真)が道中國、路程記に共に記されていて、最近まで残つていたが近年の道路改修で破壊された(写真)。

○宮守村

宮守村に入つても、旧道が改修されて県道となつていて、県道に接して旧道の一部の残るところもある(写真)。少し行くと右手に金森稻荷神社(写真)があり、更に行くと左手に十一面觀音堂(写真)がある。街道はやがて道曾部部落に入つて、その手前で東に曲つて、また南に曲つて、連曾部は宿場で、路

程記には「遠曾部ハ小場なれとも家並立つきてよき村也」とある。旧道は現在の遠曾部の家並の中程、左手に八幡宮の鳥居のあるところで(左)、東に曲って、丘陵のうしろを八幡宮の前から愛宕神社の前、遠曾部中學の前を通って大川目に出て。その山口に古碑群がある(右)。大川目の平地に下りた山裾を花巻—遠野の国道の岩駒橋から遠曾部—宮守—馬越峠—附馬牛—国道とつなぐ県道を横切つて(左)、旧道は東南方に森崎に向つている。その道を遠曾部川を渡つて、山の手にかかったところに塚の根の一里塚(左)がある。

一里塚から更に山中に入った旧道は、バイロット採石地道として手入がされ、利用されているところは約五〇ヵ所はよいが、それから外れて、森崎に向う旧道は、山林中に森の中にかくれてわからなくなつていて(左)、利用する人は全くない。峠までの途中に古碑(右)などあって、旧道の存在を物語つているにすぎない。

森崎は遠曾部と下宮守との境界で、標高五四三メートルある。その道路の右手に「才の神」が祀られている(左)。途六ヶ、高さ一メートルほど小石積の塚の上に、「道祖神 安政五戌年大」と刻まれた高さ六五センチの自然石が立っている(右)。地元で「ハッケ」と呼んでいたものが、森崎となつたものと云われる。峰から児野へ下る旧道は、テレビ塔に通ずる道の関係もあって自動車が通れる道として改修されている。途中に古碑もある(左)。

児野から濱沢川を渡つて、火石沢に出ると旧道は部落の中を通つて(左)火石沢の南側で遠野への県道に再び重なる。それから少し行くと、道の右側に「呼ばれ石(ひめいし)」がある。そこから現県道は大きく迂回して平坦地に下りるが、旧道はほぼ直進し、東南方に急な坂を下つて平坦地の山裾の県道に合する。そこに道標(左)がある。旧道は県道を横切つて、上宮守の部落に向つて、三角形の一边を行く形で、農道として残る道を行く。途中に古碑などもある。

上宮守は宿場ではないが、路程記に「村の中程に御高札場有、愛宕社有、村端に善勝寺^モと云寺あり」とあり、家並の多い部落であった。上宮守を出はずれると、旧道は石倉、戸草と現県道より北側の山腹を通つていた(左)。途中の道路わきに「文政五年十月十六日」の「庚申塔」などもある。

ノ草で、旧道は現県道を横切つて南側に出(左)、小峰に向つている。県道を横切つたところに小丘陵があり、そこに「月見觀音(月の観音)」がある。この月見觀音のある丘の北側を通つて、旧道は東南方に農道として利用されてよく残つており(左)。ところどころに古碑(右)などある。ただ小峰への上り口附近が牧草地となつていて古碑もなつていて(左)。一部消滅している。小峰の頂上附近で現県道と合するので、改修されて、昔の面影は全く失なわれている(左)。

小峰を越えると遠野市郷線であるが、小峰から濱沢川部落まで下る旧道は失なわれて明らかでない。濱沢村のはずれにある佐々木見一氏宅近くで、山谷川を渡つて川の東岸に進む道が残つており、そこに一里塚があつたと報告されているが(左)、今はその痕跡もない(右)。東岸に出た旧道は現県道沿いで、僅かに廃なつていているが多くは河筋にて残る旧道を通つている。殊に千葉家の(左)の前あたりからは山谷川沿いの道をおお橋附近まで通つていたといわれれる(左)。しかし、道中國を見る、濱沢村附近は山谷川の西岸の道を通つていて、旧道のあともあり、途中に古碑群(右)などもある(左)。川の東岸にある千葉家の(左)については「山根に長洞とて家を軒向、少し小高氣に亭前切石にてたたみ上などして、一昼夜に立屋敷構なり」(路程記)とある。山谷川沿の道は洪水のたびに通行が出来なくなつたので、幕末には西岸の道となつたが、藩政のはじめは東側の川沿いの道を通つたもので、一里塚(小峰の一里塚)もその道筋に築かれていたものであろう。

浦沢部落の南はずれで、山谷川を渡つて八森に出ると、丘陵の中腹に絶石の巨石(左)がある。大畑から田中にかけて旧道は現県道と通つて山の手

に裏となつて残っている(字94)。そして田山口小学校の前で旧道は現県道より南側の方を通り、そこに一里塚があつたと云われるが、距離の關係からも疑問がある(6)。

田中の愛宕神社(字82)(6)を過ぎたところから、旧道は、現在の現道より少し高い山裾を通っていた。上り口は畠や、現県道が振り下げられているので、僅かに残るにすぎないが、一〇〇mほど行くと旧道が残っていて、途中道のわきに石碑群などもある(字95・819)。旧道がもとの県道に出たところの左手に八幡宮と開教寺が並んである(6)。更に東に進むと再び舗装された現県道に出るが(字96)。旧道は現県道と平行して北側にあったといわれるが、水田となつてその痕跡は全くない。殊に砂子沢川を渡ったところに一里塚があつたといわれるが(6)、その痕跡もない(字97)。

旧道は石上神社人口の鳥居のある附近で(字98)(6)、現県道と重なつて、東に進むと根岸に「右へもりおか道、左へせんだい道」とある道標がある(字98・99)。この「左へせんだい道」とある南へ折れる道が花巻—遠野の国道に交わる現在の県道となつているが、旧道は根岸から東進して寒風を通り愛宕橋を渡つて遠野に入った。この道も舗装されていて昔の面影はない。ただ寒風から愛宕橋までは現在の水田ところを通つていたらしいが、猿ヶ石川の堤防修理の際、堤防上の道路となつている(字92)。

愛宕橋を渡つて愛宕神社(字93)(6)の下を通りて、遠野の町への入口に外形があつた(字94・819)。遠野には後に述べる大槌または釜石へ行く上組町、附馬牛村に出る中組町、盛岡または仙台方面へ行く下組町の三カ所に外形があつた。そのうち、この下組町の外形が最近まで残つていて、最近国道の改修で殆んど破壊されてしまった。遠野町内は外形—下組町—八軒町—六日町—新町—鍵町—一日市町—石町—上組町—外形となつて、大槌または釜石へ



第3図 遠野市旧図(明治初年)

遠野市立博物館提供

第二節 遠野街道沿いの文化財・その他

△盛岡市

① 大慈清水

大慈寺境内に湧き出た清水を、松の大桶を埋めて鉢屋町までひいて、附近の市民の共同井戸として、江戸時代から今日まで利用されている。湧出した水は四つの井に仕切られたところへ流れている。最初の井は飲料水として利用され、次に食器洗場、後に野菜洗場、次に洗濯場として利用されている。

② 間引地蔵

江戸時代、神子田町裏の北上川に、間引いて流れられた堀川が流れ寄り、いたので、土地の人が、供養の石地蔵を建てたものと云われている。

③ 新山館跡

天正14年頃、南部氏と斯波氏と戦った古戦場、享保年間水菴寺がこの地に建立されたことがあった。幕末の東、盛岡藩の洋学校日新館が建てられた。現在樹木數十本あるだけである。

④ 翠石の金毘羅神社

享保年間藩主利親公の勅請によって建立された神社であるが、境内に「享保廿二年八月吉日」の記録のある、「一石一字供養塔」がある。「天下太平、火難消滅、当所繁昌、國家安全、悉地成就、萬民伏樂」「亡母父幼有縁無縁草木園大、六親谷底界萬靈慈佑成願」と刻まれている。

⑤ 川の茶屋跡

路綱記に篠川茶屋とあるが、昔の建物は残っていない。

⑥ 柳並木と一里塚（本文参照）

⑦ 門のシダレカツラ

わが国では、岩手県のみ見られる枝垂性のカツラで、完美な枝垂をなしいる。国の天然記念物として指定されている。

⑧ 門の諏訪神社

門の権現さんといわれた社で、宝曆十一年（一七六一）五月吉日の記録のある石の手洗鉢がある。

△都南村

① 高寺観音

当國三十三番札所の十番札所である。そのうしるに小山神社がある。

② 三本柳の渡し場（本文参照）

③ 大泉院・手代森船跡

慶長二年（一五九七）開基と伝えられる。境内に聖觀世音菩薩を安置した観音堂があり、十一番札所となっている。大泉寺のうしろ、東側の丘陵は手代森船跡である。

④ 法雲神社

寛保二年（一七四二）の創立といわれ、境内に「たも」の古木がある。

⑤ 黒川館跡・鶴林神社

斯波氏の臣家黒川氏の居城であったが、天正十六年（一五八八）に南部氏に滅された。その跡の中腹に鶴林神社が祀られている。「元禄十二乙卯年十月廿六日」の棟札がある。もと観音堂であつて、大泉院境内の観音を安置していたが、明治初年の神仏分離の際、鶴林神社と称することになり、大泉院に移したといわれる。

⑥ 黒川の石突（本文参照）

⑦ 如法寺・餓死供養碑

如法寺は花林山如法寺で、『邦内郷村志』によれば「碑貫郡守林県大興寺末寺、報恩寺支配之」とある。文禄二年（一五九三）開基と伝えられる。如法寺敷道の左側に「明和五戊子年二月五日」の銘のある餓死供養碑がある。

⑧ 乙部八丁

県内方八丁と称されるところは何か所かありそのうち佐倉河の方八丁は胆

沢城跡であり、太田の方八丁は志波城跡と推定されている。この方八丁も、須忠器や糸切底の土器片などが出土している。北上川岸台地で、両側と北側は空港で切り離されている。平安時代開拓期の何らかの遺構かも知れない。

△紫波町

① 江岸寺

『邦内郷村志』に「松島山 神賀郡大迫村桂林寺木末、報恩寺支配之」とあり、曹洞宗の寺院である。開基は元和一年（一六一六）といわれるが、現在の本堂は安政四年（一八五七）の建立である。

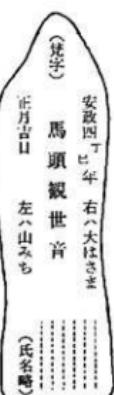
② 柳山の一里塚

路程記に「一里塚」と記されているもので、破壊されて原形をとどめない。現在在藤原一男氏宅地わきにあったと云われる。

③ 八坂神社

『邦内郷村志』に「天王 社領十五駁 盛岡白光坊末流人学院 色老不伝 草創、株札元禄四末六月重昌公、享保六年利幹公、宝曆五年十一月利雄公。」とあるもので、源氏時代天王と称されていた。寛永九年（一六三二）十二月の南都重直黒印状があり、十五駁を給せられている。

④ 館の道標



⑤ 正音寺

『邦内郷村志』に「法廣山 仙台（庄屋在の水が市）黒石正法寺末寺、報恩寺支配之」とある。文正年間の開基と伝えられる。寺内に安置する「木造毘沙門天立像」は寄木造りで、平安時代のものである。また降三世明王像、軍荼利明王像、大威德明王像、金剛夜叉明王像は共に一本造りで、平安時代の

作品で、いずれも県指定文化財である。

⑥ 古麻神社

⑦ 木戸塚の一里塚（本文参照）

⑧ 鴨口田の一里塚（本文参照）

⑨ 中尾敷の道標

明治九年のものであるが、中央に駒形神社とあり、「右ハヤマ道、左ハモリおか道」とある。

⑩ 佐比内代官所跡

安政五年（一七七六）の「佐比内村絵図」に記載されている。佐比内は近くに朴金山があって、藩政の初め、丹波弥十郎などが金堀りを行ったところで関係文書がある。

⑪ 鳳仙寺

『邦内郷村志』に「立福山 遠野横田大慈寺末寺」とあり、曹洞宗である。寛文元年（一六六一）の開基と伝えられる。

⑫ 岩屋観音

入口の巾二・六m、高さ三・五mで、奥行八・五mの洞穴で、奥に高さ六八cmの石造聖観音坐像が安置されている。保存は良好で、十四番札所となっている。

⑬ 片山洞穴住居跡

最近人骨と一緒に多數の土器片が出土したものが鳳仙寺に保管されている。土器は弥生式土器片である。

⑭ 御札場跡

「安永五年佐比内村絵図」に表示されているが、現在の県道数となっていない。

⑮ 檜廻屋敷跡

前記の村絵図に表示されているが、畠となつて、その跡は認め難い。

△大迫町▽

① 岩神觀音堂

十五番札所である。

② 岩の日の一里塚（本文参照）

③ 木戸ヶ沢の義氏碑

天保の百姓一揆の首謀者が処刑された場所で、そこに碑が建てられた。碑

文は「一念不能萬法無過 心外無心々身是雄 天保八年十月二十三日」とあ

る。碑の高さ一・二m

④ 妙林寺

『邦内郷村志』に「鬼森山 浄土真宗東方此寺住物 阿弥陀如来真向画像

有之」其裏書。大谷本願寺史如印 文龜三年癸亥七月廿二日 牌貢郡衣原着

郷（下略）とある。

⑤ 大迫代官所跡

現在大迫町農業協同組合の建物のあったところである。

⑥ 到岸寺

『邦内郷村志』に「往生山 清土宗、盛岡光豪寺末寺、有町北裏」とあ

る。慶長三年（一五九八）の開基と伝えられる。

⑦ 大迫頃

『邦内郷村志』に「在桂林寺南邑東山麓、往時城主磯賀徒臣而藤原氏也、

天正之頃城主云大迫右近、内応九」「政実（下略）」とある。

⑧ 中居邸

⑨ 愛宕神社

『邦内郷村志』に「邑人不記草創、再興元禄七年甲戌修造」とあり、社内有櫓社、慶長十三年三月十五日、領主多田弥兵衛、（下略）とある。

⑩ 下中居の一里塚

路程記に記されているが、昭和六年の耕地整理で破壊されて今は無い。

⑪ 茶屋横と諏訪神社の道標

茶屋の民家の軒下に粘板岩の自然石に「左ハそとかへめ道」とあるが、諏訪神社境内に「天照皇大神宮・八幡大神・春日大明神」と書いた安政四年（一八五七）秋十六日の碑に「右ハとおの道」とあり別個の碑であるが、もとは二つ並んで茶屋の横にあったものと推定される。

⑫ 陽明寺墓地の道標

陽明寺墓地と云われる畠の一角に石碑が数個集められて立っている。そ

の中に道標が三基あり、何れも茶屋のところにあったものと考えられる。

（1）寛政十二年（一八〇〇）三月十六日「南無阿弥陀佛」とある石碑に、

（2）「右ハとふの道 左ハ外川日道」とある。

（3）「とふの道 左ハやきまき」とある。

（4）年号はないが地蔵尊を線刻した石碑に「遠野道 左川日道」とある。

⑬ 上落合の一里塚（本文参照）

△宮守村▽

① 金森稻荷神社

創建は不明なれど、文政三年の落成札がある。眠病がなおるというので昔は参詣者が多かった。

② 十一面観音堂

『邦内郷村志』に「在宿北裏、不知往古誰人為城主、城主有八幡宮、社内有櫓社、慶長十三年三月十五日、領主多田弥兵衛、（下略）とある。

③ 連曾部館と八幡宮

『邦内郷村志』に「在宿北裏、不知往古誰人為城主、城主有八幡宮、社内有櫓社、慶長十三年三月十五日、領主多田弥兵衛、（下略）とある。

④ 愛宕神社

標高三二〇mの山上に祀られている。堂宇は文化四年建立の棟札がある。

参道入口の鳥居の附近に古碑群あり寛政十二年の庚申塔が最も古い。

⑤ 宝泉寺

『船内郷村志』に「金勝山 龍済宗義東神寺末寺」とあるが、開基は弘治二年（一五五六）といわれるから、遠野の東嶽寺の末寺として開山したものであろう。

⑥ 水林寺

西峰山 浄土真言 盛岡本寺の末寺となっているが、元和元年（一六一

五）開基といわれる。

⑦ 鹿野神社

境内に古碑群が多くあり、古いのは享和元年（一八〇一）の庚申塔である。

⑧ 墓の根の一里塚

路紀記、道中図にも記されている一里塚で、道の両側にそれぞれ一基そろって現存している。径七七八mで、高さ二mほどである。上地では七里塚と称している。保存は良好といえる。

⑨ 古碑

旧道のあった山林中に二基の碑があり、現在樹木にかくれているが、一基は寛永四年（一六一七）の「有縁無縁供養塔」（高さ一m）で、他は文久四年三月十七日の馬頭尊である。

⑩ 瑞林の才の神（木本參照）

⑪ 塚沢神社（お地蔵さん）

子安地蔵堂で元禄四年（一六九一）の建物で、境内に古碑が多くある。古いのは安永二年（一七七三）の「衆念佛供養塔」（高さ一、四m）である。

⑫ 呼ばれ石

たて五m、横六m、高さ一、五mほどの巨大な花崗岩が、道路のかたわらにあり、呼ばれ石と称されている。そのほか中央に一〇m四方の深さ一〇m

の穴があり、そこに高さ七七mのはば四角な石が立っており、五輪塔姿の梵字が書いてある。

⑬ 上宮守の道標

角柱で高さ七三cm、巾三八cm、厚さ二〇cmあり、年号はないが、「右ハもりおか道 左ハはなまき道」とあり、なお盛岡城下よりの里程が書いてある。ようだが、短時間では読み取れなかつた。

⑭ 善勝寺

宮護山善勝寺、綾織村光明寺、報恩寺支配で、慶長十年建立と伝えられる。木堂は天保元年建立のもので、山門の前に六地蔵があり、嘉永年間のものである。

⑮ 天神社と古碑

道路わきの小さい祠で、その前に古碑があり、嘉永元年の湯殿山の碑である。

⑯ 月見觀音

旧道わきの小丘の上にあり、遠野七觀音の一つで、五番宮守の寺（月見山平沢寺）と呼ばれた。

⑰ 古碑

安政四年（一八五七）の金仏供養塔（高さ一、二六m）。

⑲ 高峰碑

旧道の西南側に下峠という道があり、現在山林となっているが、その土木工事の際出土したと云われる。「天保十三年四月十日、高峰山太構現」と刻まれている。現在のところに移動して立てたものである。

△遠野市▽

⑳ 小峠一里塚跡

大正十一年の岩手県一里塚調査の際、小峠の七里塚として報告されたものであるが、昭和四十年頃開田された際に破壊された。この一里塚については

路程記、道中にも記されていない。

② 流沢の石碑群

萬永五年（一八五二）の「金毘羅人権現」・「和讚念佛供養」、元治二年（一八六五）の「山無阿弥陀佛」などの石碑群がある。

③ 曲屋千葉家

住宅の面積一二坪、寄合部分四坪ある豪華な曲家で、かつて作男十五人、馬二十頭いたといわれる。東京大学演定日本十大民家の一つである。（本文参照）

④ 田屋の大杉

日通りの周り七・一畳、樹幹の高さ二〇mの大杉で、遠野古の天然記念物となっている。

⑤ 統石

二個並んだ巨石の上に皿状に一つの石がのっているドルメン状の石である。台石は高さ約二・一mで、皿石は長さ七・三mである。花崗岩である。

⑥ 山口の一里塚

『綾織郷上誌』（昭和七年発行）に「山口小学校の住宅附近に七里塚と云ひし処あり」とあるもので、その所在は明確でない。

⑦ 谷地熊跡と駒八幡宮

建保四年阿曾沼氏が遠野に居城を築いた時、その一族宇大方氏の築いた館といわれる。周囲に森が間らされている。現在その館の一部に八幡宮が祀られ、他は木造となっている。

⑧ 光明寺

照牛山光明寺、舊洞宗、現在地に建てられたのは天正十二年（一五八四）といわれる。木造の阿弥陀如来は室町時代の作で、遠野市の文化財に指定されている。

⑨ 愛宕神社前の石碑群

明和元年（一七六四）の「背面金剛塔」が最も古いのをはじめ、江戸時代の古碑がいくつがある。

⑩ 大久保附近の田道と石碑群

享保五年（一七二〇）の梵字の碑をはじめ、享保二十年の「阿弥陀仏大菩薩」、明和四年（一七六七）の「念佛供養塔」などがある。

⑪ 開稱寺

真宗大谷派、岩流山、明暦四年（一六五八）の開基、現在の本堂は弘化四年（一八四七）に再建したものである。近くの八幡宮の鳥居近くには寛政十一年（一七九八）の「百萬福供養塔」がある。

⑫ 破子沢川東岸の一里塚跡

『綾織郷上誌』（昭和七年）に記されているが、当時既に被覆されて、原形を留めていなかった。しかし道中にも路程記にも記されていない。

⑬ 石上神社

阿曾沼氏入部時に勧請されたといわれ、後南浦氏が領主になつてからも、新田氏に命じて祭祀を司らせたという。神刀の太刀は、「永和二年八月一日 宝寿」の銘のあるもので、県指定の文化財となつていて。

⑭ 西門駒跡（駒崎越）と八幡宮

阿曾沼氏の家臣船崎石京の居館といわれる。今日駒跡に八幡宮が祀られてある。八幡宮の御神体は鉄製の懸佛である。八幡宮の棟札に「元治元年十一月廿五日」の再興のものがある。

⑮ 横岸の道標

宝曆五年年

右へもありおか道

六月十六日

左へせんだい道

㊱ 出羽神社

御神体は銅製聖観音で、江戸時代は羽黒堂と云われたが、明治になって出羽神社と改めた。社の後に羽黒石と称する巨岩がある。“旧道から参道に入るところに古碑群がある。

㊲ 新発の愛宕神社

寛治年間の創建と云われ、遠野市の人口の丘陵上にあり、本殿、拝殿など整備した神社である。参道入口に多くの石碑群がある。近くに原刻した五百羅漢がある。

㊳ 下組町外形

外形当時の土堤が一部残存しているが、道路改修で大半破壊されてしまった。

㊴ 伊勢内宮神社と木ノ下の舟渡跡

創建は阿曾沼氏入部の時とも建武年間南部能行とも云われているが、もとは、土渕の石川にあったが、現在の場所に遷ったのは正徳元年（一七一）である。この境内に松尾社ありその近くに、遠野より対岸の新里に渡る舟渡しの跡があったと云われている。愛宕橋の架橋が寛文六年（一六六六）であるから、それまでこの舟渡しが利用されていた。

㊵ 多賀神社

鍋倉山の西腹にあり、この地方最古の創建の社と云われている。阿曾沼氏時代のものである。境内には樹齢数百年の杉の木がある。

㊶ 鍋倉城跡と南部神社・市立博物館

中世の領主阿曾沼氏は、もと松崎の旗城にいたが、天正年間庄郷の時、ここに居城することになり、城下町を形成した。慶長年間阿曾沼氏滅亡後、寛永四年（一六一七）八戸より南部直栄この地に移封されて、ここを居城として、明治維新までいた。明治二年廢城となつたが、建物はないが山城の名残を留めている。現在その一部に南部神社が建てられ、南部能行などを祀つ

ている。この鍋倉城跡周辺は遠野市の政治・文化の中心で、合同庁舎・裁判所・市民センター、図書館、博物館などがある。

㊷ 銀食城の道標

大畠街道の松崎より移したものである。碑の表には次の如く刻まれており、裏には明治三十年九月その移転の理由が刻まれている。

右ハおふづ津

子麻吐努國之政以其東興済人於漢

浦利義之某等相謀成紅可謂能知

所用其力也矣

文久二癸亥九月 沖瀬鈴徒識

（氏名略）

左ハはや津村

㊸ 遠野市内の神社・佛寺

遠野は中世阿曾沼時代からの城下町で、江戸時代まで引継がれたので、旧町内に由緒ある神社・佛寺があるが、精細は略し寺院の名称を列記する。貴福山対泉院（曹洞宗）、金円山常福寺（時宗）、宝林山圓玄寺（曹洞宗）、福聚山大慈寺（曹洞宗）—梵鐘は宝永七年（一七一〇）小泉仁左衛門清尊作—、鳳徳山瑞應院（臨済宗）—本堂は遠野市の指定文化財—、金光山普明寺（淨土宗）—境内にある五輪塔は室町時代のもので、遠野市の指定文化財—、白泉山万福寺（真言宗大谷派）—境内の久子要峰の墓は遠野市指定文化財—、北身延波木井山智恩寺（日蓮宗）—口傳上人御真筆と伝えられる曼陀羅は遠野市指定文化財。

㊹ 宇加神社と一里塚

宇加神社を祀る神社であるが、境内に昭和三十六年建立の「旧蹟一里塚」の碑がある。この地方の起点であったと云われる。真跡は明かでない。

㊺ 日枝神社と欠ノ上種荷神社

遠野町内の東はずれの丘陵に日枝神社と欠ノ上種荷神社がある。



1. 盛岡市 通野街道の入口(駄屋町)



2. 盛岡市 大慈清水



3. 盛岡市 間引地蔵



4. 盛岡市 見石の金比羅神社



5. 盛岡市 霧川茶屋附近(北より)



6. 盛岡市 柳並木(南より)



7. 盛岡市 蜂が森



8. 盛岡市 門のシダレカツラ



9. 都南村 三本橋の渡し(村営当時のもの)



10. 都南村 法鎮神社



11. 都南村 大泉院(左側が鉄音堂)



12. 都南村 鐵林神社



13. 都南村 黒川の石突



14. 都南村 銀死供養碑



15. 都南村 如法寺



16. 都南村 乙部の家並



17. 紫波町 江岸寺



18. 紫波町 八坂神社



19. 紫波町 柳田の一里塚跡



20. 紫波町 柳田の一里塚よりの旧道
(真直に林の方に進む道)



21. 紫波町 鶯山附近の旧道



22. 紫波町 鶯の道標



23. 紫波町 鶯山の旧道より再び県道に出る附近



24. 紫波町 正音寺(四本の木の立つところ)



25. 紫波町 木戸脇の一里塚



26. 紫波町 鶴目田の一里塚



27. 紫波町 佐比内代官所跡



28. 紫波町 墓仙寺



29. 紫波町 岩屋鉄音



30. 紫波町 片山の洞穴住居跡



31. 紫波町 佐比内高札場跡



32. 紫波町 佐比内検断所跡



33. 大迫町 岩の目の一里塚跡



34. 大迫町 岩の目の山越えの旧道
(大迫側よりの登り口)



35. 大迫町 木戸ヶ沢農民の碑



36. 大迫町 宿屋をしていた家



37. 大迫町 山岳博物館



38. 大迫町 紗羅寺



39. 大迫町 大迫代官所跡(農協の建物)



40. 大迫町 到岸寺



41. 大迫町 大迫館跡



42. 大迫町 中居館跡



43. 大迫町 愛宕神社



44. 大迫町 旧道あと(水路のところ)



45. 大迫町 下中居の一里塚のあった附近の旧道



46. 大迫町 下中居の茶屋のあったところ



47. 大迫町 茶屋の道標



48. 大迫町 道訪神社の石碑群(右はしが道標)



49. 大迫町 隅明寺墓地の道標(1)



50. 大迫町 隅明寺墓地の道標(2)



51. 大迫町 逆椙使道(土沢町への道)



52. 大迫町 上落合の一里塚跡(小屋の附近)



53. 宮守村 球県道の傍に旧道が残っている



54. 宮守村 通曾部の家並



55. 宮守村 県道より旧道への入口



56. 宮守村 八幡宮への旧道



57. 宮守村 愛宕神社入口の石碑群



58. 宮守村 墓の横の一里塚に向う旧道
(直ぐ舗装していない道)



59. 宮守村 墓の横の一里塚
(家より・南塚を撮る)



60. 宮守村 肝付に向う旧道
(廃道となっている)



61. 宮守村 肝付頂上の才の神



62. 宮守村 肝付への旧道



63. 宮守村 火石沢部落への旧道(左に入る道)



64. 宮守村 塚沢神社(お地蔵さん)



65. 宮守村 呼ばれ石



66. 宮守村 上宮守の道標のあるところ
(右に入るのが旧道)



67. 宮守村 戸草に向う旧道(左側の草の生えている道)



68. 宮守村 大橋への旧道



69. 宮守村 月見鉾舎



70. 宮守村 大上附近の旧道



71. 宮守村 現在の小幡附近の道



72. 遠野市 小幡の一里塚跡(田のところ)



73. 逸野市 滝沢の旧道と石碑群



74. 逸野市 綾織の千葉家(曲屋)



75. 逸野市 千葉家附近の旧道



76. 逸野市 田屋の大杉



77. 逸野市 綾織のオオバシ



78. 逸野市 経石



79. 逸野市 経石附近の旧道と道路わきの石碑群



80. 逸野市 旧道が現県道と一緒にになる附近



81. 遠野市 光明寺



82. 遠野市 梶郷の愛宕神社前石碑群と旧道



83. 遠野市 大久保附近の旧道



84. 遠野市 大久保の旧道傍の石碑群



85. 遠野市 大久保を通って県道に出る附近の旧道



86. 遠野市 上大久保、聞称寺前の旧道が県道に出る附近



87. 遠野市 砂子沢川東岸の一里塚跡附近の旧道の
あったところ



88. 遠野市 石上神社入口



89. 遠野市 横岸の道分



90. 遠野市 横岸の道分にあった道標



91. 遠野市 出羽神社



92. 遠野市 家屋より愛宕様に向う旧道



93. 遠野市 愛宕神社



94. 遠野市 下組町の外形跡



95. 遠野市 伊勢岡宮神社



96. 遠野市 対泉院



97. 遠野市 常福寺



98. 遠野市 楢立寺



99. 遠野市 大慈寺



100. 遠野市 瑞應寺



101. 遠野市 善明寺



102. 遠野市 知恩寺



103. 遠野市 明治時代の遠野市六日町

(遠野市立博物館提供)



104. 現在の六日町



105. 昭和25年頃の樹形附近

(遠野市立博物館提供)

第二節 大樺街道

・遠野市

○遠野市から大樺への街道は、現在、野崎までは遠野—川井村への国道三四号線となつて改修舗装されていて、昔の面影は全くない。国道と分れた後の大樺街道は一般道路となつていて、自動車が通れるよう改修されているので昔の面影はないが、山中に入ったところは自動車の通れる道に改修される際、道筋が変えられているので、旧道は残っているが、その反面、人が進れても通らないため道の姿をなくして跡となつて不明なところもある。次にその精細を述べる。

大樺または釜石への出口の上組町と舛形附近は国道として道巾も拡張した上、過去に解体鉄道の敷設などで大部変っている。ただ舛形を出たところ

に、延喜甲子天（一七四四）の道標があった。「右へかまいし道 左へをふづら道」とある。現在戸沢白前に移転してある。

舛形を出て、真直ぐ北へ、上早瀬橋を渡って、新巣一八幡—五日市と連む街道は、よく舗装された国道となり昔の面影はない。しかし国道の傍に、ところどころ古碑群が比較的多く立っている。また、早瀬峠への参拝者も多かつたのか、早瀬峠への分れ道が多く、そこには道標が立っている。似田貝には、里塚があつたが、今はその痕跡もない。

木宿すきて、小鳥瀬川沿いに道が弯曲しているが、アイオン、カザリン台風で、川道が旧道部分を大きくけずりとつたので、現在は旧道より東側を通っていることになる。

国道は野崎—火石で北の川井村の小田へ向うが、旧道は火石で分れて東へ界木崎に向っている。もと小国への分れは和野にあり、旧道の分れに石碑群があり、その中に一つの道標がある。『右おふづら道 左おふくに道』とある。川尾を通って大樺に行くと、里塚があつたが、今はいない。大洞附

近から、次第に山の手にかかるので、その附近から、新しい道路が作られて、旧道が残っている。殊に、旅籠跡のから界木崎に向う旧道は川沿いにはぼ残っていたが、最近のダム工事などで大部分破壊された。現在の界木崎越の道は一般に利用されていないが、自動車の通れる道に川沿の山の斜面を削つて新たにつけられている。

・釜石市

界木崎越を越える街道は、現在和山牧野開発道路としても改修されているが、旧道は赤柴川の上流の沢沿いを通っていた。現在旧義塾までは道を見分けるのが困難な状態である。江戸時代でもこの附近は満足な道になつてなかつたことは、文政十年（一八二七）の見島太樹の『和山峰の記』に、大雨の時にこの峠をこえた状況を次の如く書いてあることによつて明らかである。

「茫茫たる草原、幾筋ともなく水押す跡のくひこみたる赤砂を踏みつけつゆく。五人の同行は別れ或は行進、おもひおもひに足の向たら筋別々に下る。いつに落合ふともさたかならざる路のおはつかなさに、こなた行くものああと嘆へは、あなた行くものおおと答え、かたみに筆をたのみにゆく」（昭和五十三年度釜石市指定文化財調査報告書）による。

義塾場からの旧道は、現在も残っている。ひらくすには街道沿いに愛宕神社がある。和山の三軒茶屋^④は、大樺街道の中継地で、遠野からの農産物、大樺からの鹿その外海産物の売買交換が行なわれた重要な地点で、その名通り、三軒の家があつた。現在も二軒残っていて人の通行もあり、旧道もはつきりしている。

三軒茶屋から初神^⑤に至り、そこから切石峰を越えて上台に出る。この道は殆んど利用する人がないので地図上に標示されていないが、農となつて旧道のあとが残っている。途中に古碑などもある。上台から赤坂^⑥へ砂場を経て芳形に向うが、赤坂附近では開発道路が旧道と重つていて、人家も一軒あ

る。砂場には流の子神社がある。

砂場から芳形に行くが、旧道とあるが今は通る人もいない。芳形は明治時代まで茶屋が二軒あったといわれ、左手に石塁の跡や土塁が残っている。それから少し行った右方に見島大樹の句碑がある。それから道は利川に向うが、全く通る人ないので、旧道の跡は残っているが、土地の地理に詳しい人でないと通ることは困難である。途中ようくらには古碑がある。

大槌町

種ノ坂を越えて、種ノ川沿に開通している新山牧場への道路に出るが、これから大槌に出向う旧道は改修整備した立派な道路となっている。

舗装された旧道の種ノ川口に一里塚があり、そこにある民家は屋号を「塚やしき」と称している。更に東に進み、札場の徳並への分れに古碑群があり、そのなかに道標が一基ある。札場から東へ進んで、「中渡」附近で旧道は川の南側（現在の道路の対岸）を通ったらしいことは、昔の道のかたわらに、石の地蔵尊像や、古碑などであることによつて推察されるが、どこで再び、現在の道に戻ったか、明らかでない。

そこからの旧道は、現在改修整備された一本道が小糸川沿に通じている。わらびつなに古碑群がある。下塚には一里塚があり、北側の一基が我存している。浜街道に出る手前の桜木町附近は住宅地として造成され道路は小糸川の堤防上に通じているが、旧道の道筋と若干違つてゐると思われる。そしてこの付近の古碑は小糸川附近に集められている。

大槌街道は浜街道と、総になつて大槌代官所前を通っていた。

④ この街道は海岸と内地を結ぶ大通路であったが、笛吹岐戻の自動車道の開通によって、人馬の通れないこの街道の利用度は急速に衰えた。これに伴い昭和二十年頃元の上越村長などがこの道路の改修を考えて以来、昭和十六年から不格的議会に着手したが、戦争などで一時中断し、戦後昭和五年林業課、土木課の援助を受けて昭和二十八年にその改修工事を完成した。その記念碑が桜木町の丘上に立つ。

道標に立っている。

第四節 大槌街道沿いの文化財・その他

△遠野市

○ 上槌町外形跡と道標

外形については本文参照、道標

（表）

○ 念佛供養

（裏）

延享丁天

七月吉日

○ 新張の石碑群跡

もと十数個の古碑があつたが、現在遠野總八幡宮境内に移されている。

中に二つの道標があつた。

（表）
庚申塔
右ハをほづち
左ハをふつち道

（裏）

弘化四年
六月十二日



○ 加茂神社
文治五年阿曾沼氏の創建といわれる。早池峯山妙泉寺新白宮の末社で、早池峯の通称所であった。

○ 遠野八幡宮
阿曾沼時代に勅請されたといわれる。南郷直采が移封された際、八戸での元の上越村長などがこの道路の改修を考えて以来、昭和十六年から不格的議会に着手したが、戦争などで一時中断し、戦後昭和五年林業課、土木課の援助を受けて昭和二十八年にその改修工事を完成した。その記念碑が桜木町の丘上に立つ。

化財となつてゐる。境内には新張にあつた石碑群が移されてゐる。

㊂ 五日市駒跡と倭文神社

阿曾氏の家臣立花氏の船であつた。駒跡に立花氏の守護とした文殊菩薩を祀つた文殊堂が修業者などの修業道場として江戸時代栄えながら、明治初年の神仏分離の際、倭文神社と改めて今日に至つてゐる。

㊃ 谷地の道標

天保三年二月二十日
右へをふづち

金足羅大権現

左へはやもね
下谷地村

㊄ 佩田貝の一里塚跡

共に破壊されているが、北塚のところに家を建てた佩田貝氏は屋号を「塚」、「塚の根」といわれた。現在はない。南塚の跡は消防車庫になつてゐる。

㊅ 早池塚参道古道跡と石碑群

写真に見える島居の下を通つて、北に早池塚参道があつたが、現在は古道は木川となって別のところに道路が開通している。その島居の傍に古碑群がある。その中に寛保三年（一七四三）「御はやづねを道」の碑がある。

㊆ 旧菊池家曲家

小友町根本にあつた菊池家を移転復元したもので、国指定文化財である。

㊇ 八幡表頭（八幡沖頭）跡

阿曾氏の家臣菊池重前（重前）の居館であつた。

㊈ 常堅寺

農耕山常堅寺、仁利室。この寺は平安時代安倍氏時代に創建された古刹で天台宗であったといわれるが、室町時代に由利宗に改めたといわれる。境内

のヒバ、サワラ、スギはいずれも令和〇〇年を数え、サワラは遠野市指定の天然記念物であり、仁王像も遠野市指定文化財である。また一字一石経塲書もある。

㊉ 阿部屋敷（安倍館、丸館）跡

平安時代安倍氏が奥六郡を支配した時代、一族北畠六郎重任が屋敷を構えたところといわれ、平地であるが、屋敷の周囲に濠の跡があり、西隅には定期跡がある。中世の土塁城郭と考えられる。現在阿部与市の宅地となつている。

㊊ 本宿の石碑群

高湯子商店前と宿場の二か所に江戸時代の古碑群がある。

㊋ 野崎の石碑群

角崎館（久手館）跡

㊌ 旧柄内道の石碑群と道標

大穂街道と小国街道との分れに十数基の石碑群がありその中に、道標が一基ある。

天保六年正月

右 おふ川ち道 同行
左 おふ貝尔道 謙中

（氏名跡）

五月大吉日

㊍ 大洞の一里塚

大正十一年の一里塚調査に原形を有していたが、昭和二十五年（一九三〇年）木用、燐となつて破壊された。

㊎ 旅籠跡

界木岬脇の旅籠があつたところと云われる。

八釜石市

八木町

界木峠

大樹街道の海岸に出る峠で、現在は和山牧野開発道路が通じている。

(2) 和山のシナノキ

方言でマダノキと呼ばれるもので、樹齢四百年以上といわれ、県内第一の巨木で、釜石市指定天然記念物である。

(3) 和山ひらくすの愛宕神社

現在山林の中に荒れている。

(4) 和山の三軒茶屋と古碑群

その名通り三軒の茶屋があった、休憩場所であるが、現在も二軒が残って住んでいるが、一軒は空家になつていて、文政六年（一八二三）の「南無阿弥陀佛」、「湯殿三山供養」などの碑がある。

(5) 初神

もと近くに初神分校があつた。

(6) 上古の次見船と古碑

文政六年（一八二三）の「念佛供養塔」、慶応三年（一八六七）の「三塗山」の碑などある。

(7) 砂場の滝の子神社

日の神様として、多數の参詣者があつたといわれる。

(8) 芳形の蒸屋跡と児島大梅の句碑

芳形に蒸屋が、軒あつたと云われる。建物はないが、石垣、土塁が残っている。近くの道路の向い側に児島大梅の句碑がある。又政十二年（一八二九）開墾陸中山田の富蔵貢洞卓翁と小森卓郎の建立したものである。

(9) 「浦上日磐浦まで米流馬越」の大梅

ようくらの「家臣大権現」の碑

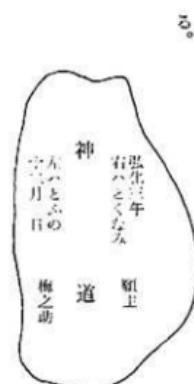
文久二年五月十九日の銘のある大きな碑で高さ一・八メートル。

④ 長門川口の一里塚跡

現在一里塚の跡はまつたくないが、尾辰敷の屋号をもつ家がある。

(2) 兵庫の古碑群と道標

寛政元年（一七八九）の「奉庚中供養」をはじめ、文政、嘉永などの古碑が一か所にまとめてある。その中に弘化三年（一八四六）の道標がある。



③ 中渡の地蔵尊

地蔵尊は高さ八八厘米でその傍の石に次の如く刻まれてある。「奉造立地蔵一軀、仍死功徳六親大師七世父母能引導」、「元文二年十一月廿四日」とある。その地蔵は弘治十一年と寛保五年の念佛供養塔などある。

(4) わらびつな古碑群

寛保元年（一七四一）の「南無阿彌陀佛念佛供養」碑をはじめ、文化十五年七月十六日「念佛供養」など、江戸時代の碑が十数基が一か所に集められている。

(5) 下塙の一里塚

街道北側の一基が残っていて、その近くにある家は塙屋敷の屋号で呼ばれている。その近くに、文久二年の山神社と天保二年金毘羅大権現の碑がある。

(6) 小橋橋附近の古碑群

沿街道と大河街道と合流する小橋橋附近に多くの古碑群があつたが、現在

視田住宅地に至る右側民家前に移された。享保七年、享保十三年、宝曆十三年、明和元年など比較的古い供養碑がある。

⑦ 大和裁跡と大和代官所跡

大和代官所は現在大和小学校の校地にあった。



遠野市 上組町外形のあったところ



遠野市 上組町外形のあったところにあった道標



遠野市 新張の石碑群



新張の道標



遠野市 谷地の分れ



遠野市 谷地の道標



遠野市土渕 遠野郷八幡宮



遠野市 足洗川の道標



遠野市 野崎の石碑群



遠野市 栃内駅舎



遠野市 和野の分れ



和野の道標



遠野市 大洞の一里塚跡



遠野市 大洞の旧道あと(川沿の塀のところ)



遠野市 旅籠跡と旧道(林の中に入っていく道)



釜石市 塙木峠頂上附近



並石市 ひらすくの愛宕神社とその附近の旧道



並石市 三軒茶屋の旧道



並石市 和山附近の旧道
(左に入るのが旧道)



並石市 初神から切石峠を望む



並石市 上台より切石峠への登り口



並石市 赤坂の火見櫓とその附近の旧道



並石市 芳形の茶屋場跡

72-37-12



並石市 津島大梅の句碑



大槌町 種戸坂を越えて新山牧場への道路へ出たところ



大槌町 梶戸川の一里塚跡



大槌町 札場の石碑群



大槌町 札場の道標



大槌町 下塚の一里塚



大槌町 下塚附近の旧道

里塚があった。現在右側の一本が残存しているが、左側は道路で破壊されている。それから少し南へ進むと左側に六角牛山への旧道があり、そこに六神石神社の石鳥居があり、そこにも石碑群がある。

遠野から釜石への釜石街道は現在国道二八二号線で、最近仙人トンネル道路の開通によってその利用は著しく高まっている。旧釜石街道は仙人町の舞所があり、そのためトンネル開通以前は自動車通行可能な笛吹峠越えの釜石への道が一般に利用されていた。

上郷に入つて左側の稻荷神社のところで、十字路となり、南へ陸前高田市への国道との分岐点がある。古碑は稻荷神社のところに集められているが、その中に道標が一基あり、「右ハヘせん道、左ハカまいし道」とある⁽⁴⁾。もと筋かき向いのガソリンスタンドのところにあつたものである。

国道二八三号線は旧釜石街道に沿って、改修整備されているので、旧道は面日を一新しているが、ところどころに旧道の残っているところがある。殊に仙人峠越の道は軽便鉄道の開通していた頃人馬に改修されたものであるが、現在も昔の面影を残している。

道と何度も改修の手が施されている。従つて、江戸時代の旧道は樹木の中に覆いかくされて、仁田岬の一里塚が漸く旧道の存在を物語っている。番屋で再び現国道と重なる。

の国道は南に寄って、道中因に「ソウゼン」と書いてある駒形神社の西より前を通っている。駒形神社に石碑群がある。道路の改修築製の際、道路傍の石碑は一か所に集められたものが、ところどころに石碑群としてあるので、次

番屋から足が瀬川までは旧道と国道は重なっているが、足が瀬から旧道は早瀬川沿いに屈曲して走っていたが、国道によつて大巾に改修されてしまつてゐる。田面木の一里塚もそのあとを残していない等。

いるところがあり、併行してあつた田道の一筆など

仙人峠の麓、沓掛で橋を渡つて九十九折の山道にかかるが上り口に石碑がある。仙人峠の麓には洞穴の中に早瀬温泉がある。沓掛の山人寺の傍りには早瀬湯といつてある。

間田の一邸場の手前に、旧道は国道の北側に残っていて、現在国道から一
歩ほど離れて南側にある朝池氏の宅地のところに、茶屋あり、屋号を茶

親子が把守していたが、看板の個人蔵の登り口は広場になってしまったが、駅道時代「仙人駅」があり、ここに商店があつて、一休みして駅にかかるのである。自動車の発達は駅道では駆除があるので、次第につかわるものである。

。益石市

仙人崎について、路程記は釜石側の大橋からであるが、「仙人の九拾九曲

と云、拾六丁程登って中仙人と云、道のかたへしに石の御堂有^④、此所迄大橋より六拾三曲程あり、夫より拾七丁四拾間程登て仙人跡、仙人の御堂有^⑤、有程下行て茶屋掛場と云、少行て大久保と云、拾五丁三拾間にて脊掛^⑥とある。仙人跡頂上は標高八八七m、脊掛五五七m、大橋二五四mであるから、脊掛から三百三十m、大橋からは六百三十三mと標高差があり、そこを徒步か、カゴで登降した。荷物の運搬に牛馬を利用したが、それは大変なものであつたと思う。昭和二十五年釜石線の全通と、笛吹峠越の自動車道が整備され、それ以後、仙人跡を越える人もなくなった。徒歩で仙人跡頂上にあつた仙人堂も今はなく、石の小祠も解体したままに放置されている^⑦。ただ、中仙人の石の水槽^⑧が、この峠越に当つて、水ない苦しさを物語つてい る。

大橋に下りた後、即ち大橋からの登り口の左手に石碑群がある^⑨。旧道は現在の陸中大橋駅前の広場に出るが、そこから北へ山手に進むと大鶴鉱山で、釜石鉄山第一高炉の建設されたところである^⑩。街道は大橋駅前から東南方に進むが、旧道がそのまま改修舗装された道路で昔の面影はない。大松には大松の「里塚」が「某石存している」。南側のものであろうが、それによると、旧道は、現国道の兩側住戸のところを通っていたらしいが、その痕跡はない。砂子渡くると、江戸時代末の砂子渡鉄座跡^⑪が、街道から川をへだて向う側にあった。

洞泉くると、旧道は現国道の北側とやや小高い山稜を通りて、その道は甲子町の正福寺につき当る付近まで現存して、通路として利用されている。この旧道沿いの洞泉神社入口に古碑群があり、洞沢には八幡宮がある。石碑は現国道路にも集められて立っている。関沢、大煙、坪内人口の古碑群がそれである^⑫。

旧道は現在の正福寺附近で、現国道を横切って、国道の南側に出、旧甲子

町を通っていた。正福寺^⑬はこの旧甲子町の家並の西端にあったが、何回かの火災で、現在のところに位置するようになった。旧甲子町^⑭は道路の真中に中壇があり、手は入れられているが昔の面影を残している。街道の家並の多いところでは奥州道中でも一闊、水沢、仙北町など、中壇があり、遠野でも中壇があつたが、今日中壇を残しているのは県内では甲子町唯一だけである。しかし並は変わっている。甲子町の中壇左側に札場があつた。

甲子町を出、旧道は再び国道と重なるが、洞が鼻^⑮を通ると、再び国道をそれで、今度は北側の野田家^⑯の前を通る。洞が鼻には古碑群や樺の古木があつた。樺は本年伐採された。

旧道は現国道と平行したり、重なって、釜石市内に入つて行く。七の橋で小川川を渡つたところで、小川川へ行く道との分岐点となる。そこに道標があつた。現在、道標は移動して上小川にある。道標には、「右ハ小川山道、左ハ甲子町、遠野ヘ」とある。

小川への道に折れて少し行って、また親和橋で小川川を渡つて戻つたところに体育館と並んで釜石製鐵所史料館^⑰がある。

旧道は釜石の梁山莊の付近で、国道をそれで、北側昭和ログランドから中妻町を通つて、鈴木町大波町大入町へと出た。梁山莊は大天山觀音寺跡^⑲で、大正五年釜石製鐵所が購入したもので、庭園はもとのまま、生かして釜石の迎賓用の施設として利用している。そのうしろに八雲神社がある。八雲神社は建久年間の創建と伝えられ、尾崎神社と共に釜石では古い神社である。

④ この街道は、仙人跡の向う側釜石の大鶴鉱山の鉛^⑳まで、大鶴鉱山の鉛石を運搬するため明治十三年より鉄道の運転がなされていた。それに見合つた、花巻より遠野市仙人跡の鉛まで輕便鉄道が大正四年に開業して運営を開始することになつたが、仙人跡にトンネルを開通させることは実現出来なかつた。そこで人は仙人跡を歩いて越し、荷物は鉄道を敷設して運搬したが、仙人跡を越す時は大変であつたので、雷歎^㉑の自動車道路の開通は人の動きを委託することになった。

第六節 父石街道沿いの文化財・その他

△遠野市▽

④ 前川原の古碑群

享保十六年の「庚申百面金剛尊」の碑をはじめとして十数基の碑が二か所にまとめられてある。

⑤ 関田橋の「里塚と関田橋たもの石碑群

関田橋たもとにともと旧直治にあつた石碑を一か所に集められている。年号のあるものでは文化四年（一八〇七）の「念佛供養塔」が古い。

⑥ 白鷲跡

阿曾沼氏の家臣荀池成景の居館といわれている。山城で、頂上は平坦で的場跡、井戸跡など残っている。

⑦ 関口の古碑群

幕末のものが多い。

⑧ 曹源寺と板沢館跡

曹源寺は清水山曹源寺で曹洞宗、天正二年（一五七四）開山と云われる。

板沢館も天正年間板沢兵が築いたといわれる。

⑨ 赤川の一里塚と駒形神社

赤川の一里塚の西南方に少しほなれて駒形神社がある。駒形神社には江戸時代の棟札や絵馬がある。

⑩ 稲荷神社前石碑群と道標

釜石街道と氣仙道への国道の交叉する十字路の西北に稲荷神社があり、その傍に古碑が集められている。その中に元文三年（一七三八）の道標がある。

⑪ 片岩の一里塚と石碑

片岩の「里塚と石碑」

仙人峠の麓、早瀬川に臨んで、自然の石灰岩洞穴があり、洞穴内に観音を安置して祀ってある。

⑫ 早瀬観音（音掛観音）

右ハケゼン道
南無阿弥陀佛
左ハカマイシ道

69
慶雲寺

深沢山慶雲寺。曹洞宗、天正年間の創建と伝えられる。境内に樹今四百年ほどの杉の大木がある。

⑬ 伊勢内宮神社と石碑群

参道入口に明和元年（一七六四）、天明八年（一七八八）の護死者供養塔あり。

⑭ 仁田村の一里塚と石碑群

約一二ヶはなれて二基が並んで山林の中にある。延約一〇mで高さ二三mある。この近くに、寛政一〇年（一七九八）の念佛供養塔などある。

⑮ 瓜ヶ森駅跡

阿曾沼時代の駅で、土屋や空疋などある。

⑯ 日出神社

阿曾沼時代に勅請、もと祭神は藥師如来と云われる。

⑰ 田面木の一里塚

大正十一年の調査の際には二基残したが、道路や煙で破壊された。この煙を「塚の烟」といっている。

⑱ 早瀬観音（音掛観音）

仙人峠の麓、早瀬川に臨んで、自然の石灰岩洞穴があり、洞穴内に観音を

安置して祀ってある。

「至遠野町 四里廿町、至仙人峰二十一町」

「里程標、十七里」

「上閉伊郡上郷町大字細越字片岩」

「岩手県」

と角様の四面にそれぞれ刻まれている。

また仙人峰登り口の一つめの曲りのところに延享元年（一七四四）の「南

無阿弥陀佛」、天明八年（一七八八）の「大道體廣無易」の碑がある。

△釜石市▽

⑩ 仙人峰頂上と仙人堂

仙人峰頂上には仙人像を安置した仙人堂とその近くに峰の茶屋があったが、現在は共になく、仙人像だけが遠野市上郷町の仙人神社に安置されている。

「島山京介作

光清山□遍安圓仙人大覺

宝来六口大

別當三光房

八月二十日 勸七

高さ五五cmの像である。

⑪ 仙人峰頂上の石の小祠と石碑群

仙人峰頂上には文化五年釜石の佐野与市建立の小祠があつたが、昭和五十三年の宮城県沖地震で解体した。小祠内にあつた石に、「仙人販堅守擁護神」（現在釜石市立図書館に保管）がある。また仙人堂の傍には石碑塔二基（一基は高四十六cmで享保十五年の銘あり、一基は高さ六十三cm）があつたが、現在前記の仙人神社に移されている。その他寛政十年と文化五年の石碑がある。

⑫ 中仙人の石の水槽、石の小祠

「文化二年乙丑八月開水 釜石浦佐野忠治忠義」と刻まれた石の水槽がある。

る。上部は一九cm×六八cmの長方形で、高さ四五・五cmある。三百四十五間の額で水を満たし旅人に給水の便をはかったものである。

⑬ 大橋登り口の石碑群

「馬頭觀世音」二基、「牛馬諸靈塔」一基、「駒形神社」一基と庚申塔二基で、牛馬關係の多いのが注目される。

⑭ 大橋高炉跡と山神碑

安政四年（一八五七）第一高炉跡のある大橋鐵山で、大島高任、道太郎父子の顯彰碑もある。

⑮ 鉢山の古墳群と新山坑磁石石跡

鉢山の鉄石運搬に使役した牛馬を供養した碑と長さ三丈、山四間の磁石岩があつたが、現在昭和十九年五月落盤によって碎かれてない。

⑯ 錆鐵山

文化十二年九月大總代官所役人の検分によつて甲子村の八十四人が被差された。

⑰ 大松の一里塚

小笠原迷宮「岩手県に於ける古墳分布の概況」（人類學雜誌四〇一、一）に

大松古墳としてあげられているが、江戸時代の絵図にこの場所に一里塚の記号が記されている。南側の一基が一部欠けているが残存し、径七m、高さ一・六mである。

⑲ 砂子渡鉄座跡

⑳ 一渡古碑群

寛政十二年（一八〇〇）の「庚申塔」をはじめとして、六基の江戸時代の古碑が集められている。

㉑ 洞泉神社

郷村誌に日月堂と称し、大正五年（一九一五）の勅詔と云われる。明治になつて洞泉神社と改めた。街道からの入口に古碑群がある。

② 関沢八幡宮

宝曆十二年（一七六二）の棟札がある。繪馬が多く保存されている。

② 関沢・大畠境の古碑群

元禄四年（一六九一）の山祇の碑をはじめ江戸時代の石碑が十一基集められている。

② 大畠古碑群

ここにある碑は釜石街道から分れて大畠橋を渡り、松倉峠を越えて、伊達領唐丹に行く追分付近にあったもので、江戸時代のものは三基である。

② 坪内入口の古碑群

この付近のものを道路改修の際に集められたもので、江戸時代のものは、天明六年（一七八六）の「庚申行滿塔」だけである。

② 正福寺

釜石山正福寺。舊洞穴。もと甲子町の西はずれにあったが、三度も火災にあい、現在のところになった。天正八年（一五八〇）創建とも、寛永九年（一六三二）創建とも伝えられる。

② 甲子町宿場

むかしの街道の道路の中央にあった中樋が、今日も残って、道路の中央を流れている。樋の巾七〇cmで、両側の道巾は四mである。札場は町並の中央北側の佐々木テル氏宅の前にあった。慶長十六年（一六一一）町が出来たと伝えられる。

② 洞が井と樋の古木

樋の古木は国道拡張工事によって伐採されて今は無い。

② 野田家

この地方の開発地主である。この地方の多くの資料を所蔵している。

② 向定内荒神神社

② 柏館と定内の古碑群

中世の山城である。その麓の定内に古碑群がある。享保七年（一七二二）「南無阿弥陀佛」が最も古い。

② 小川の道標

記念銘はないが、江戸時代のものであろう。

もとは、釜石街道と小川新道の分れにあった。小川新道は釜石の富豪鈴屋佐野与次右衛門が、文政七年（一八二四）六月、藩の許可を得て開通したもので、遠野へは仙人峠越えより近く、一時相当利用された。

② 小川觀音堂

江戸時代初期の創建で、多くの文化財を所蔵していたが昭和五十三年三月の火災で殆んど焼失した。

② 釜石製鐵所史料館

観音寺跡と八雲神社（本文参照）

② 八雲寺跡

中世の山城で、阿曾沼家臣野算宮内の居城とも、鳴西方道出雲とも伝えられている。

45



遠野市 万通寺



遠野市 前川原の石碑群



遠野市 下間の石碑群



遠野市 下間の茶屋（民家に茶屋の屋号があり、その手前の道が旧道）



遠野市 間田の旧道跡



遠野市 間田の石碑群



遠野市 間田の一里塚跡



遠野市 赤川の一里塚



遠野市 上郷町の氣仙への道の分れ



遠野市 分れにある道標



遠野市 国道わきに残る旧道



遠野市 細越の伊勢両宮神社



遠野市 伊勢両宮神社附近の旧道



遠野市 仁田岬に向う旧道



遠野市 仁田崎の一里塚



遠野市 仁田崎の一里塚



遠野市 番屋のところへ出る旧道



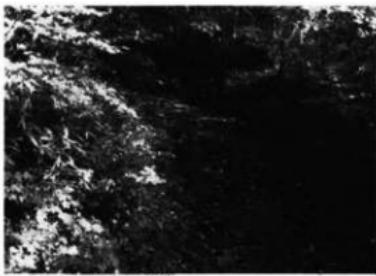
遠野市 田面木の一里塚跡



遠野市 平原觀音の岩屋



遠野市 仙人崎への登り口



遠野市 仙人崎への山道



遠野市 仙人崎の一里塚と道標



蓋石市 昭和17年以前の仙人堂



仙人堂に安置してあった仙人像



蓋石市 仙人峰の石の小祠



石の小祠の標札



蓋石市 仙人峰頂上の石像群



左石像の拡大写真



釜石市 中仙人の石の水桶



釜石市 大橋からの仙人峠登り口



釜石市 大橋の登山口の石碑群



釜石市 大橋駒山の大島高任の記念碑



釜石市 大松の一里塚



釜石市 一里の石碑群



並石市 洞泉神社前の石碑と旧道



並石市 関沢附近の旧道



並石市 関沢・大畠境の石碑群



並石市 正福寺



並石市 甲子町の中塙のある旧道



並石市 柏原跡



並石市 小川の道標



並石市 小川觀音堂

第七節 笛吹峠道・その他

遠野から釜石または大槌へ行く道路として、前に述べた大槌街道と釜石街道の外に、笛吹峠越で釜石または大槌へ行く道路と釜石街道（小川新道）を落すことは出来ない。これについて遠野市分の現地調査が出来ていないので、釜石市分が主となるので、その他として一括することにした。

笛吹峠越の道路は、界木幹を越える「大槌街道が公用道路として、土地の人々から武士街道と呼ばれていたが、これに対し笛吹街道は遠野と大槌あるいは釜石を結ぶ街道として、大槌街道以上に物資の交流が盛んであった」

（武山利一氏の記述）とあるように、幕政時代に相当利用されていた。その上、昭和三十四年有料道路仙人トンネルが開通して釜石街道が通するまで遠野と釜石または大槌とを結ぶ自動車道として大正十三年から開通して、釜石街道以上に利用され、軽便鉄道さえ無用なものとした重要な街道である。從つて、現在も県道となっている。勿論、自動車の通する道路とし整備舗装されている。県道は旧道と重なっているところもあるが、山地に入った部分は藩政時代の旧道と別のところに開通している。それについて、遠野市分は簡略に、釜石市分を主として述べる。

笛吹峠道は上町の外形を出て、釜石街道を東に進み、篠路を過ぎて晴山への道に進むところで、釜石街道と分れる。旧道は現在の県道より少し東に分岐点があった。それから長谷塚一横前一篠石一比尻田一小水内一大草里と旧道と県道は重なっているが、大草里のはずれで、旧道は河内川の南側に沿つて東北方に進み、山地にかかる。八八二の笛吹峠の頂上を目指して急な斜面の山道を進み、途中県道を横切つて、現県道の西側、山の頂上のほほ尾根つたに笛吹峠の頂上に出た。県道改修後山道になつてからは、現在通る人もないので、道は雑草に覆われて道の体をなしでいる。

笛吹峠を越えて、道はほぼ東方に進み、再び県道と交叉して、県道の両側に出て急な斜面を坂元部落日指して下りて行くが、坂元部落までの道は雑草

に覆われたり、山林となつて通る人もなく、注意しないと明らかでない。坂元から青ノ木までは現在も旧道が利用されているのではっきりしている。

青木の東方に橋野高炉跡のがある。

旧道は昔ノ木分校のところで、県道と一緒にになって大口まで進む。大口から旧道は東へ小峰を越えて能舟木への道を進む。この道は現在も利用されているので、舗装はされていないが、自動車の通行も可能である。能舟木から中村で再び県道と合する。それからの旧道は県道として改修舗装されている。中村には熊野神社がある。

中村で県道に出ると、左手の山麓に林宗寺がある。江戸時代道路開拓有名な牧庵觀牛和尚が住職となつていて寺である。林宗寺の門前から一〇〇mほどのところに、小校街道との分岐点があり、道標が立つている。道標は「右ハ両石 左ハ大槌」とあり、年号はないが江戸時代のものである。小校街道は東北方に古里一横内を経て種戸坂に出で、大槌街道と一緒になるもので、旧道が良く残っている。古里では釜石市で天然記念物に指定している大杉のがあり、横内には古碑群がある。

中村から釜石への道を東に進むと沢部落の左手に羅半隱居屋敷跡があるり、古碑が立つている。右側には源氏神社がある。街道を鶴野川沿いに進むと「つるぎの駒」と云われる、山が鶴野川に迫つている懸所がある。現在県道は山麓を削取つて通じていて、もとは山越をしたが、それも岩石の凹凸の多い難路であったものを犠牲者が通り易く、道を普請したところといわれ、その記念の碑や、その後供養をした碑などが立つていて、つるぎの駒の鼻を曲った、旧道の山の登り口のところに玄翁和尚の布引鐵音道開創の碑が立つていて。

街道を更に進んで、上栗林の板橋の茅沢林道との分れに古碑群がある。庚申塔の台石に三葉が浮き彫りにされているのが注目された。それから少し行くと「縣中記」で有名な三浦命助の生家がある。現在の住宅は建て直されて

いる。その隣に布引觀音堂がある。[◎]

更に進んで道々の橋野川を隔てた対岸の砂子畠に「明神かつら」があり[◎]、釜石市の天然記念物に指定されている。それから少し入ったところに砂子畠鉢座跡がある。[◎]

県道になっているところは完全に舗装修理されていて旧道の面影は全くなく、新山で浜街道の国道に合する。国道と笛吹峠の分岐点は、昔は現在の分岐点の少し北に寄ったところらしく、その分岐点に古碑群がある。

小川新道については、当初記述する予定になかったが、地区調査員武山利一氏の指摘もあり、これについて、書かれた資料も渡されたので簡単にふれることにする。「昭和五十三年度釜石市指定文化財調査報告書」(昭和五十四年三月文化財調査報告書第十集釜石市教育委員会)に板沢幸雄氏の「釜石新道図」に精細に述べられているので、それによつて概要を記述する。

釜石で海老丼を営んだ豪商鈴屋佐野与次左衛門が、沿岸と内陸部との交易

を使ならしむるため、仙人峠にかかる新道開削を考え、小川口から遠野へ越える新道をつくることを藩に上申した。それは文政五年(一八二二)六月に許可を得るところとなり、工事に入り一年がかりで、遠野、宮古方面から人足をあつめ、費用六百三十貫をかけ翌七年六月に完成をみるところとなつた。

この新道は、小川口から奥の「トノゴヤ」というところから、片羽山の山

腹を通り、赤岩をすぎ、遠野の佐比内に至る道路で、小道(一里六丁)にして、五三里四丁四十九間の距離で、仙人峠を通る路程より、十七里余の短距離で、時間もはやく筋筋も楽であった。したがつて、開通後は商荷物の大半はこの新道を利用する者が多くなつた。

その結果、甲子町の交通済済にも影響を与える事態にまでなつたが、またいつの頃からか衰微して行つた。

この道の絵図が残っている。それに記されている、道筋の地名を遠野側から記すと次の如くである。

遠野町一足より新道入口・青笹村閑田(塚・塚あり)一左比内村一水口ト云(註²塚あり)一足より新道音詠場(塚の内)新山野・猫内野・室平(塚あり)一赤岩一大櫻・遠境櫻木岱ト云(塚あり)・沼ノ袋瀧アリ一中子町・虚空瀧沢ト云(塚あり)・片羽山一足所瀧有一足芳ノ一所々呑水有一足より大木立・萩岱(塚あり)一白水沢トヨノヤと云一わらひ野一野(塚あり)一

小川村・桃木瀧一小川村一足遠新道一新板橋・釜石瀧・甲子村堺・中島・永出ト云一八幡瀧一大渡り一釜石瀧

註²赤川の一里塚(釜石街道)

第八節 笛吹峠道沿いの文化財・その他

笛吹峠頂上

旧道は笛吹峠の頂上附近を通るが、現在の県道は、山腹の斜面に道をつけ尾根の鞍部を越えている。

⑤ 橋野高炉跡

大島高任が大橋と共に最初に高炉を築いて製鉄を行つたところで、国指定史跡である。

⑥ 熊野神社

中野部落は江戸時代の中心地で、この神社は天文三年(一五三四)の勅詔と伝えられる。橋野村の鎮守神である。

⑦ 林宗寺

釜石山林宗寺。曹洞宗。慶長二年(一五九七)に早橋に創建されたが、六世継牛和尚が寛延二年(一七四九)この地に遷した。

⑭ 小枝街道の分れと道標

轢牛和尚開削道路の最初のものといわれる。俗に寺詣り街道ともいわれて
いる。

⑮ 古里の御神業杉

周り約六m、高さ約三〇mで、樹令四百年と相定されている。

⑯ 古碑群

安永四年（一七七五）の庚申塔や念佛供養塔などがある。

⑰ 轢牛居屋敷跡

太田林の与三郎から轢牛が寄進をうけて出来たもので、轢牛はここで坐禅
往生したと伝えられ、坐禅石がある。

⑲ 滝沢神社

祭神は大山祇尊。寛文年間の勅請といわれる。明和三年（一七六六）の棟
札がある。

⑳ 古碑は轢牛の道普請に關係したものである。

安永六年

道普請林宗六世

高さ 六五cm

牧庵 轢牛

高さ 五三cm

道供養塔

高さ 七〇cm

道供養塔

高さ 七〇cm

道供養塔

文化四十一年

高さ 七〇cm

道供養塔

高さ 七〇cm

布引觀音奧宮への参道開削碑

高さ 七〇cm

化縁千手布引觀音道

栗林村常樂寺量支夏開闢

高さ 一六六cm

化縁千手布引觀音道

寛延四年冬月廿五日

高さ 一六六cm

板橋の古碑群

文政四年（一八二二）文政六年の庚申塔などある。

㉑ 三浦命助は三閉伊一揆の指導者で、その責任を問われて、投獄され獄死
した。布引觀音堂には文政五年作の千手觀音や、元禄五年の正觀音が安置
されている。栗林村の人々の古くからの信仰を集めている。奥の宮は㉒ 照。

㉒ 明神かつら

中心の樹幹の周囲より多數の枝が成長し、所謂「千本かつら」に該当す
る。高さ三四・四八m、枝巾三七・四mある。

㉓ 砂子煙銭座跡

慶応三年、砂子田源六が幕府の認可を得て鉄銭を鋳造したところ。



益石市 笹吹峠頂上の旧道



益石市 橋野高炉跡



益石市 青ノ木の旧道



益石市 能舟木への旧道の入口



益石市 中村附近の旧道



益石市 林宗寺



益石市 小枝街道への分れ



益石市 小枝街道分れの道標



豊石市 古里の御神木杉



豊石市 沢の驥牛隱居屋敷跡



豊石市 つるぎの船の本道
(旧道はこの岩盤の上を通った)



豊石市 つるぎの船にある道供養碑群



豊石市 霊宝和尚開削の山道と記念碑



豊石市 板橋の庚申塔



豊石市 三浦命助の生家跡と布引鉄骨



豊石市 明神かつら



亘石市 砂子焼鉄部絵図



亘石市 浜街温から笛吹神道への分れ



遠野市 鍋倉城跡遠景



遠野市 鍋倉城跡(南部神社への石段)



遠野市 遠野市立博物館



遠野市 博物館前にある道標
(紋鏡より移転したもの)



亘石市 亘石製鉄所史料館



亘石市 史料館内部

第三章 街道沿の公開施設

一、大迫町立 山岳博物館

〔大迫町〕

一階コンクリート、二階木造〕

國の特別記念物「早池峯山高山植物帶」は大迫町、遠野市、川井村にまたがっているが、蛇紋岩山地特有の乾性高山植物群落が大迫町側にある。また

大迫町からの岳口が早池峯山登山に一番便が良い。それがこの地に山岳博物館を開設した坪山と考えられる。高山植物の中でも、ハヤチネウスユキソウ

はこの山のシンボルとして親しまれている。これがアルプスのエーデルワイスとよく似ているところから、アルプスの山々に開まれたオーストリアのベルンドルフ町と昭和四十年友好都市の縁を結び、それを記念して町の中央にある小高い丘を「ベルンドルフの丘」と命名し、ここにオーストリアの民家を模した記念館を建設し、山岳博物館として、昭和四十六年開館した。

館内には早池峯山系を中心とした地学、植物、動物等の資料を収集保管し、その一部を展示しているが、記念館的要素が強く、博物館自体の展示は面積内容共貧弱である。

二、遠野市立 博物館

〔遠野市東館町三一九〕

鉄筋一階建、展示面積八五五²m²〕

この博物館については、岩手日報紙上に、「市立図書館と併設の遠野市立博物館は六月一日に開館した。慶應大学名譽教授、池田弥三郎氏の監修で、「遠野物語」を構成の主体とした民俗博物館、視聽覚に訴える展示方法が多く、見学者から好評。また図書館の併設は「博物館の資料と図書館の文献が相互に活用できる」という利点があつて全国的に注目を集めている。」(五

五一・一二・三二夕刊)と評されているように從來余り見られない展示方法で、大阪の民族博物館の展示方法をとり入れている。

展示第一室は遠野物語の世界。第二室は遠野の自然とくらし。第三室は遠野の民俗学となっている。なお特別展示の試みもなされ、調査で訪ねた時に

丁度、第一回特別展として、「遠野のオシラマ」の展示がされていて、見ごたえのある内容であった。とにかく一度は見学する価値ある内容をもつてある。

三、釜石製鐵所史料館

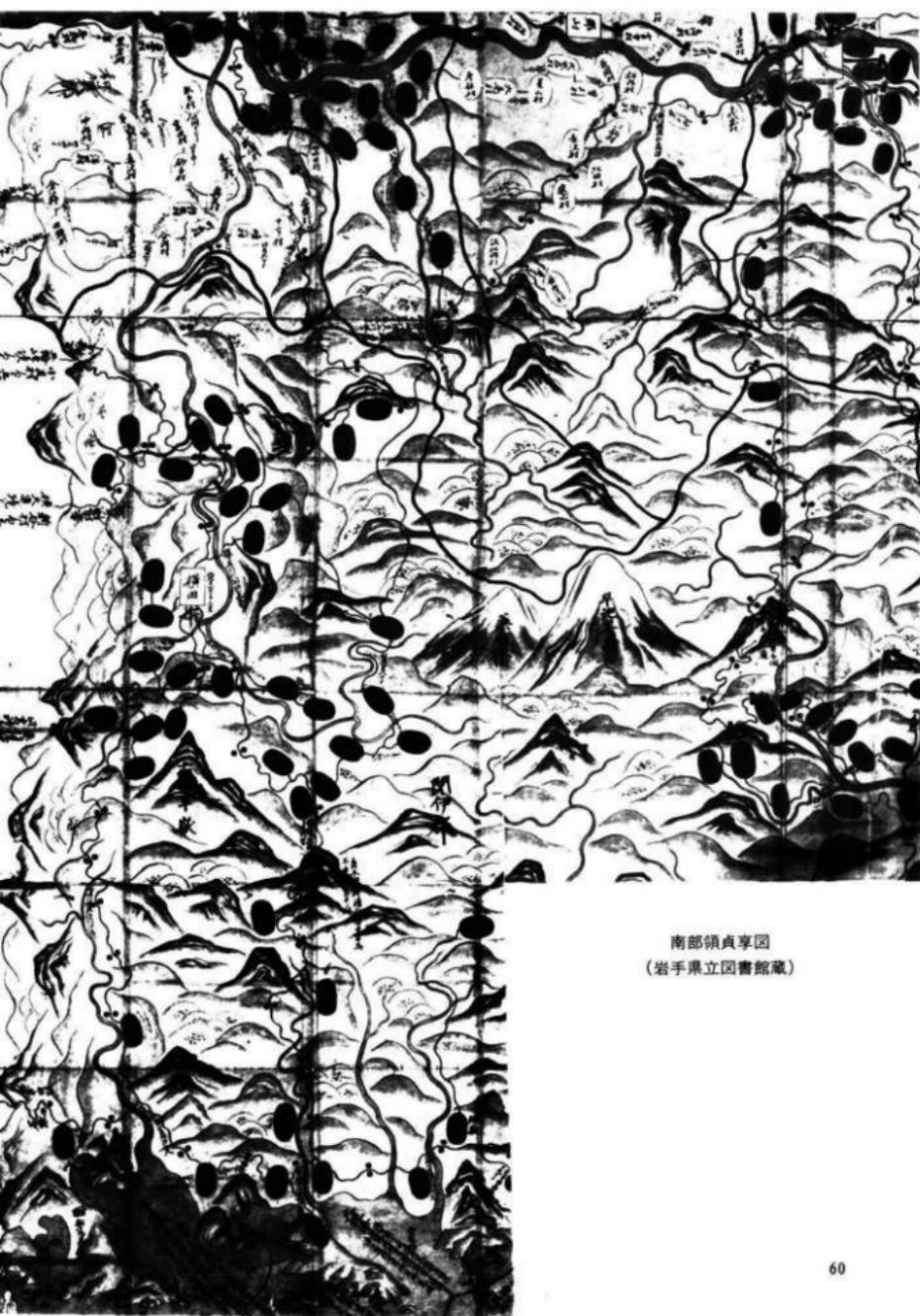
〔釜石市小川町釜石製鐵所能力開発センター内〕

鉄筋コンクリート建物一階部分〕

安政五年の大島高任による高炉の初出铁品をはじめ、その当時の製鐵の状況を物語る絵巻にはじまって、今日までの釜石製鐵所發展の歴史を实物や写真によって幕末、明治、大正、昭和と順序よく整理されて展示がされている。釜石製鐵所の歴史を調査するには是非訪れる必要のある資料が保管されている。昭和五十四年十月に開館した。現在、保管史料を展示するのに、未だ狭いので二階も利用して、展示室を擴げる計画とのことである。

第四章 あとがき

大槌・釜石街道としながら、盛岡から大槌までは釜石に行くまで、途中通る市町村は盛岡市からはじまって、都南村、紫波町、大迫町、宮守村、遠野市、大槌町または釜石市で、三市三町二村の八か市町村に亘り、その上内陸部の中心遠野から海岸への道路は主要なものが三つあり、それに小川新道を加えれば、四街道となり、奥州街道の岩手県分以上の内容をもっていると考えられる。殊に遠野市と釜石市は、行程も長い上に四街道に亘るので、勤務の閑を見て出来る内容のものでなく、昨年まで行った調査と比較にならない内容をもつていたことに、この報告書書いていて気付いた。従って、遠野市など文化財、その他のところで、地区調査員の調査記述して報告した内容を担当割愛したのは、刷上り頁数を考えてのこと、申訳なく思っている。それでも当初予定した三倍の頁数になつたと考へる。その点、一部の道路についての報告がなかつたのは心残りであるが、やむを得ないと考へている。また機会があれば補足したい。しかし、一応出来るだけの最善をつくして、一応まとめてあげたことを述べて、あとがきとする。



南部領貞享図
(岩手県立図書館蔵)

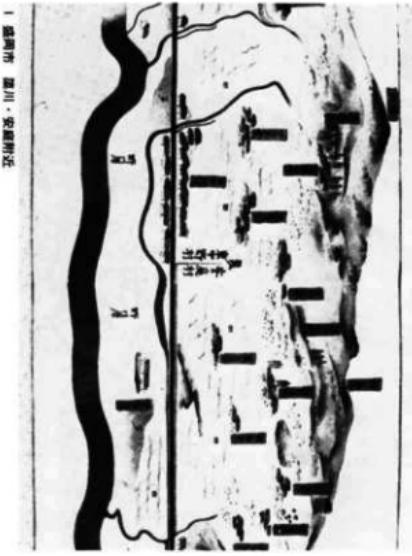
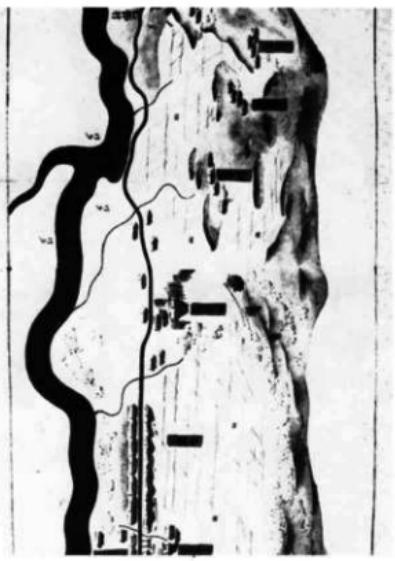
三閉伊道中図抄

(盛岡市中央公民館所蔵)

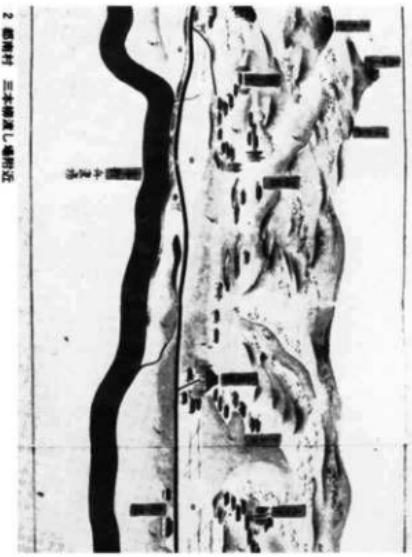
(盛岡→釜石に編集を変えている)

幕末文化文政頃の作と考えられ、三巻もののうち
三巻の44図のうちから22図を抜粋した。

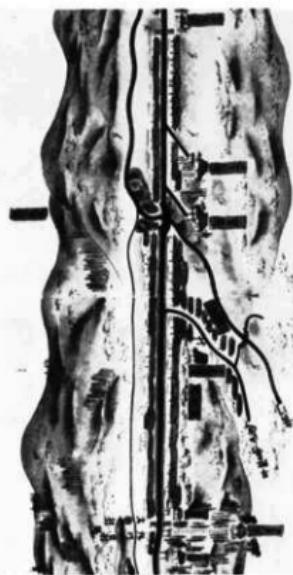
3 鶴鳴村 乙部附近



4 宮之町 八幡附近



1 大治町の中心部



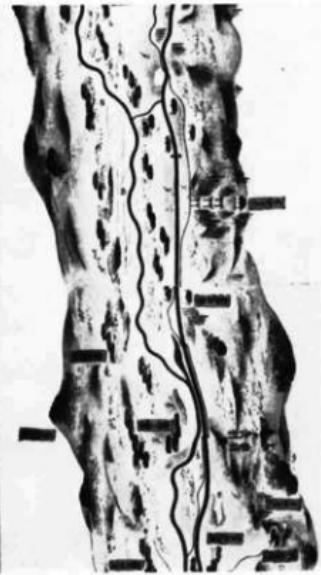
5 鹿沼町 佐比内附近



■ 大治町 上溝谷の一里塚附近(一里塚の印あり)

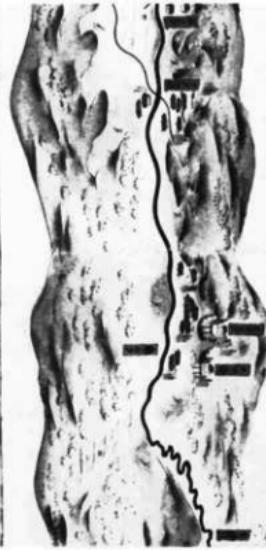
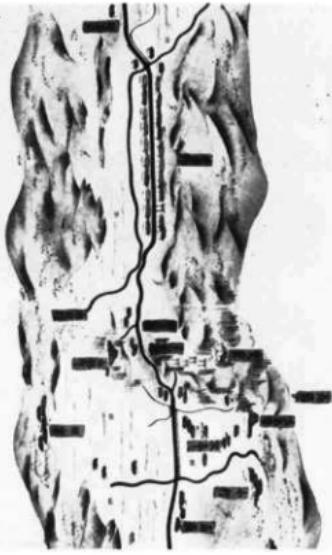


6 大治町 塩の目の一里塚附近(一里塚の印あり)

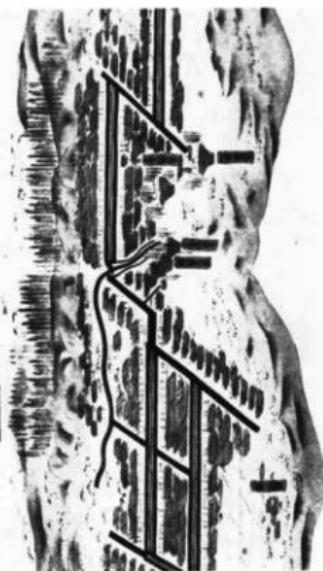


11 舟首村
12 舟首村

13 舟首村
14 舟首村



15 遠野市 通称「中央ひがし」



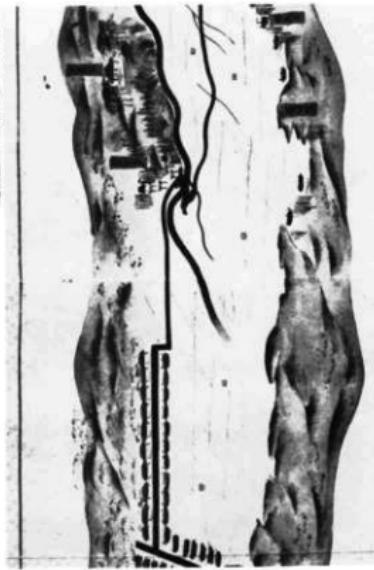
13 遠野市 桥本・千葉地区の附近



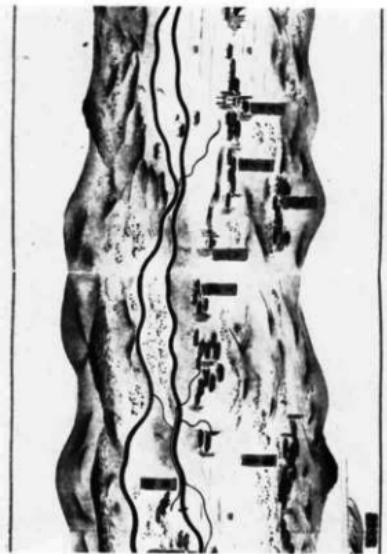
16 遠野市 上田町付近から青森へ



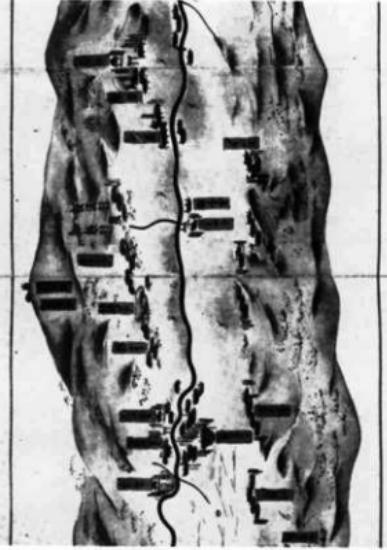
14 遠野市 岩手から下田原町



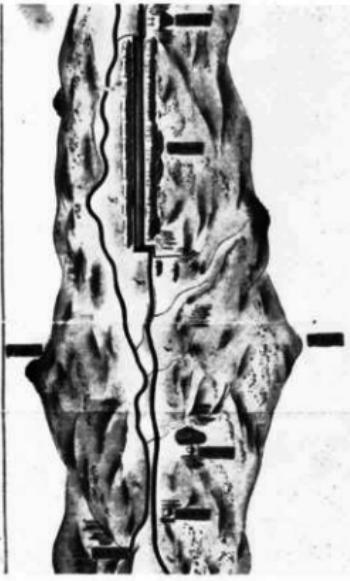
17 沿岸出露の高さ一メートル以上の山の断面



18 川床の高さ一メートル以上の山の断面



22 鎌石市 甲子町の状況



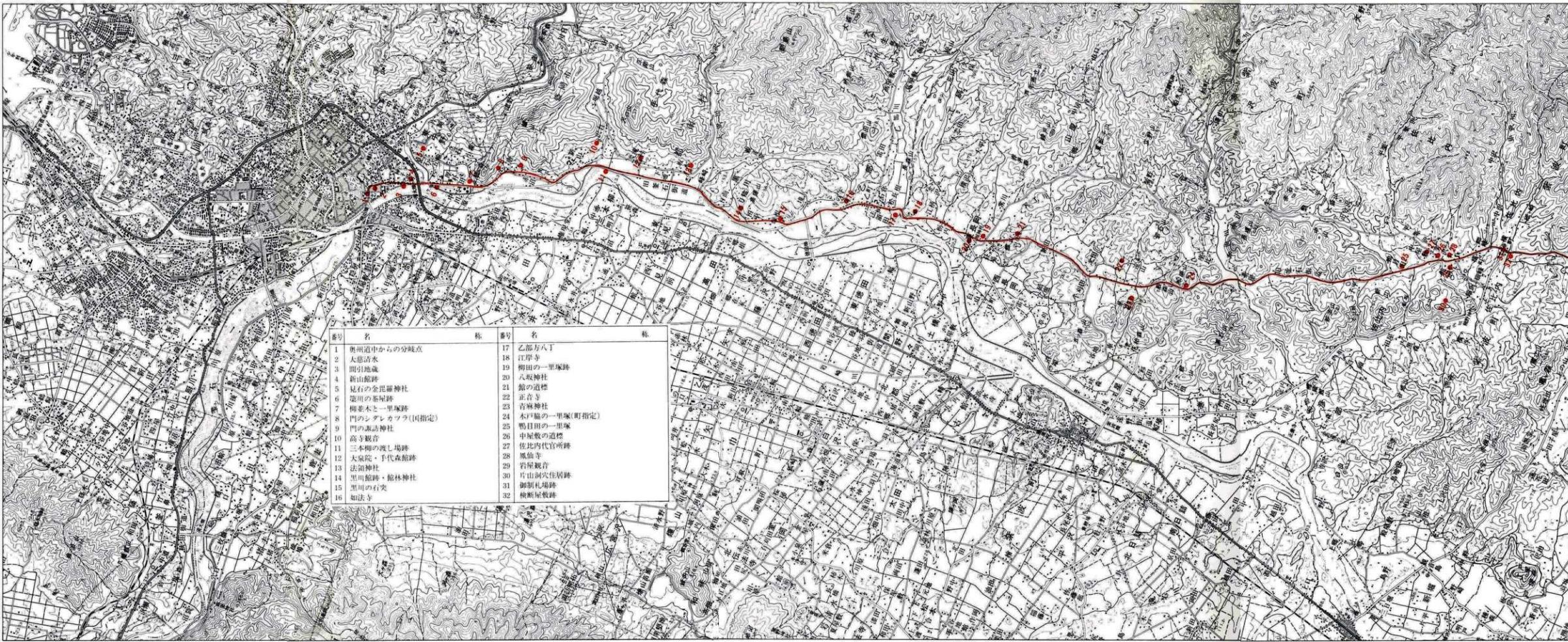
20 連野市 蒜振から仙人井へ



21 鎌石市 仙人井から大堀へ

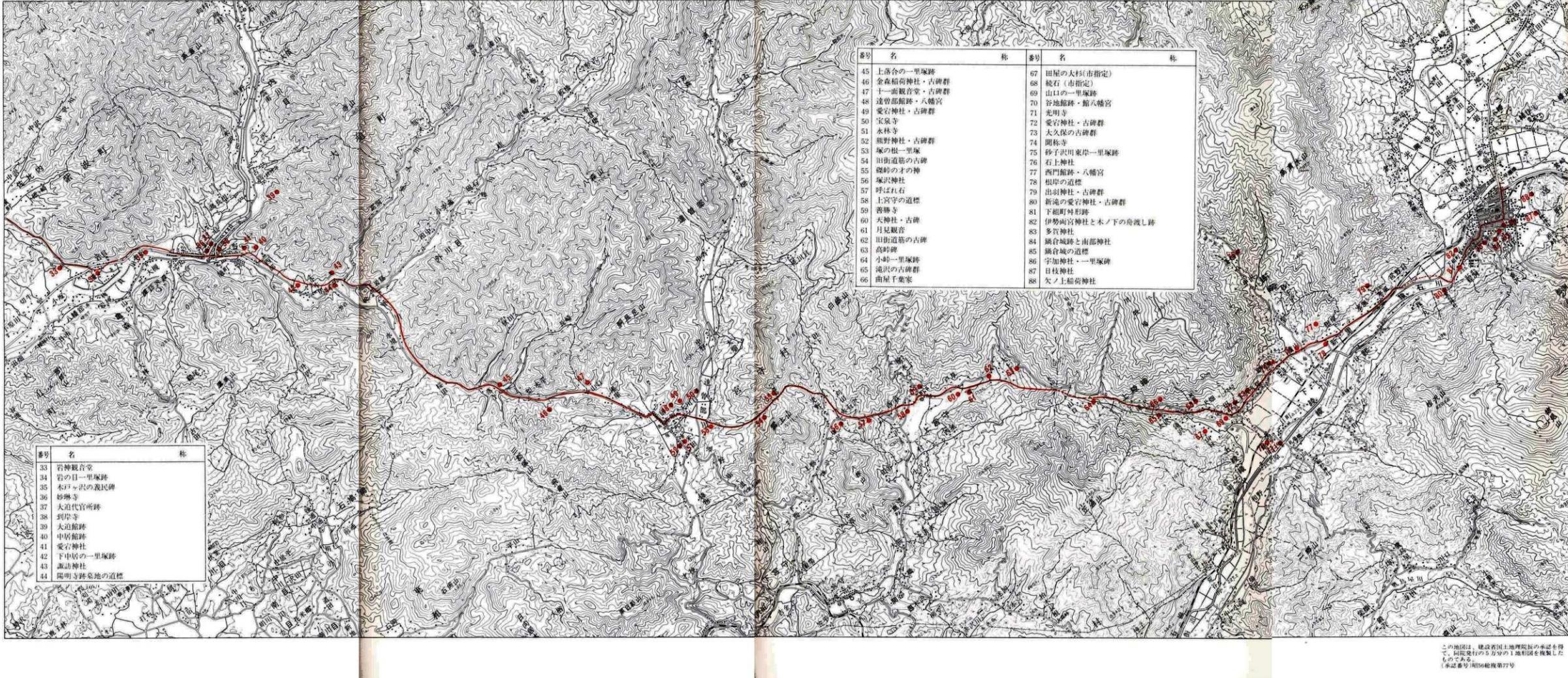


街道筋に残る文化財「遠野街道」



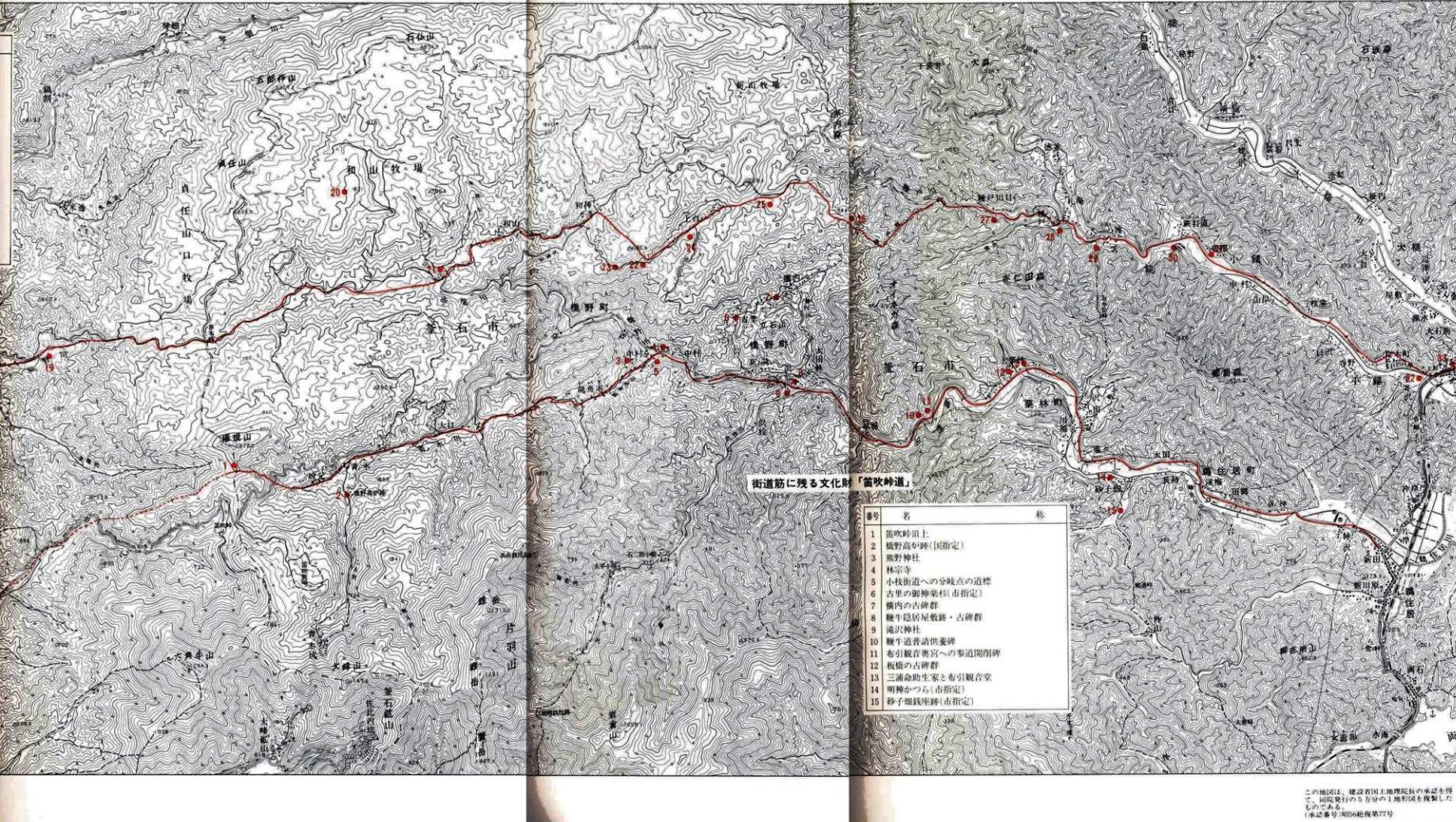
この地図は、建設省国土地理院版の本誌を用いて、同院発行の5万分の1地形図を複製したものです。
本誌番号：昭和56年版第77号

街道筋に残る文化財「遠野街道」

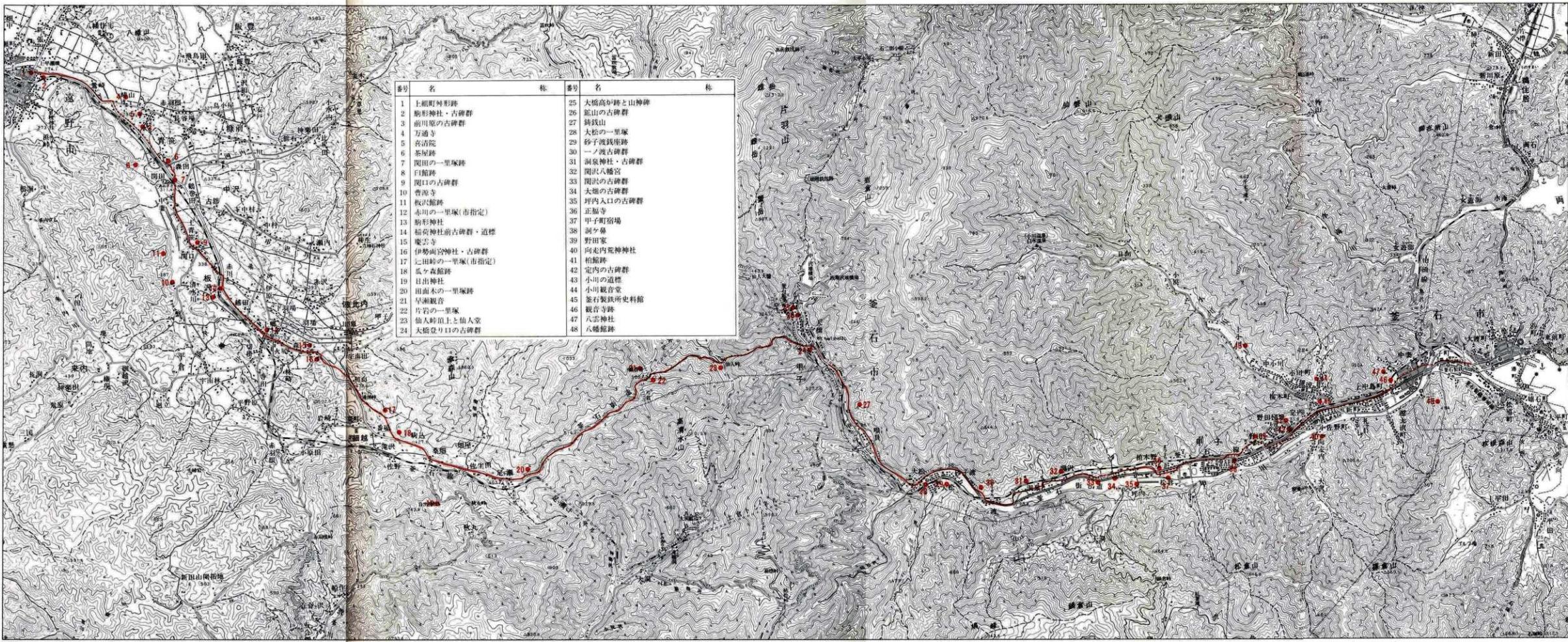


街道筋に残る文化財「大槌街道」

番号	名	番号	名
1	上郷町外形跡	18	大槌の一里塚跡
2	新潟の古碑群跡	19	板屋跡
3	加茂神社	20	和山のシナノキ(市指定)
4	遠野八幡宮	21	ひらくすの愛宕神社
5	五日市駁跡・倭文神社	22	田街道筋古碑
6	谷地の道標	23	上台の火見櫓と古碑
7	凱田川の一里塚跡	24	砂場の滝の千尋社
8	早池の參道古道路・古碑群	25	芳井の茶屋跡・兎島大梅の句碑
9	菊池家宅(重要文化財)	26	ようくらの三輪山大権現跡
10	八幡寺跡	27	種戸川目の一里塚跡
11	常磐寺跡	28	札場の古碑群・道標
12	阿部屋城(安倍館)跡	29	中波の地蔵堂
13	本宿の古碑群(1)	30	薪打の古碑群
14	本宿の古碑群(2)	31	下坂の一里塚
15	野崎の古碑群	32	小槌橋付近の古碑群
16	角城船跡	33	大槌代官所跡
17	田柄内道古碑群・道標		



街道筋に残る文化財「善石街道」



この地図は、建設省国土地理院地図の承認を得て、同地図行方不明分の1.地形地図を複製したものである。
（本部番号）明56絵復第7号

岩手県文化財調査報告書 第六十四集

大槌・釜石街道

昭和五十六年三月三十一日 発行

編集 岩手県教育委員会事務局文化課
発行 岩手県教育委員会
印刷 川口印刷工業株式会社